

1. 9周年を迎えて

佐々木 良一

私が日立製作所を退社し、東京電機大学にお世話になったのが2001年4月のことですから、早いもので9年がたちました。70歳の定年まで後8年ですから折り返し点を過ぎたこととなります。また、7周年記念誌を発刊して2年がたちました。

この2年間は大学院の情報メディア学専攻の専攻長を務めた時期と重なります。前の2年間に比べ、研究室の運営はスムーズに行くようになり、成果も上がってきたと思います。しかし、その伸び方は少しずつ小さくなっているようにも感じています。やはり1つの折り返し点を迎えているのかもしれない。

この2年間も「国際展開の実現」を大きな目標の1つに掲げましたが、ほぼ目標を達成できたと考えています。私がGeneral Chairを務めたIFIP（国際情報処理連合）WG6.11主催のI3E2008（IFIP 8th International Conference on e-Commerce, e-Business, and e-Government）が2008年9月24日—9月26日に東京で開催され好評のうちに終了することができました。また、F2GC 2009（The 2009 International Workshop on Forensics for Future Generation Communication environments）のように外国で行われる国際学会のGeneral Chairを頼まれるようになりました。また、私や学生の国際学会での発表も増えてきました。2008年度、2009年度には研究室からの国際学会での発表がそれぞれ5件と6件になり研究室の中で国際学会での発表が特殊なことではなくなってきました。これからは、経験させるための国際学会発表と、海外に大きな影響を与えるための国際学会発表の2つを意識し、それに応じた発表先や発表方法を決めていきたいと思っています。

また、引き続き、卒業論文ならびに修士論文の質の向上も目標に掲げており、土曜日に集中的に指導を行ってきました。そのせいもあり論文はコンスタントに採用されるようになって来ました。また、芦野祐樹君の情報処理学会DICOMO2008ベストプレゼンテーション賞や日本セキュリティ・マネジメント学会第一回辻井重男学生論文賞セキュリティマネジメント学生論文賞の受賞、小須田優介君の情報処理学会山下記念研究賞の受賞、古澤麻衣子さんの情報処理学会のシンポジウムDICOMO2008ヤングリサーチ賞の受賞、田村佑輔君の日本セキュリティ・マネジメント学会第二回辻井重男学生論文賞セキュリティマネジメント学生論文努力賞の受賞など論文や発表に関し外部から表彰を受けることが増えてきました。さらに、第13回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム危機管理コンテス

トでの準優勝や、情報処理学会コンピュータセキュリティシンポジウム 2009(CSS2009)の中で実施されたマルウェアによる不正侵入対策コンテスト MWS カップ 2009 での総合優勝など手を動かす分野でも表彰を受けることが増えてきたのはうれしいことです。

3周年記念の研究室概要にも書きましたが、よい仕事をする基本はよい情報を得ることだと思っています。そして、よい情報はよい情報を発信しないと入ってこないともっており、積極的に講演を引き受けるとともに、各省庁の委員会活動に参加したり、学会活動を行ったり、企業と研究を共同で行って来ました。この間、日本セキュリティ・マネジメント学会会長、情報ネットワーク法学会理事長、ネットワークセキュリティ協会の会長、日本学術会議連携会員、内閣官房セキュリティ技術戦略専門委員会委員長なども務めました。おかげで、情報セキュリティ大学院大学より第5回「情報セキュリティ文化賞」を、情報処理学会より功績賞を受賞することができました。

研究成果の実用化は相変わらず苦戦しています。研究成果を実適用するための共同研究も始まっていますが、大きな成果になるかどうかは今後の課題です。また、IT リスク学を確立するために、日本セキュリティ・マネジメント学会の中に「IT リスク学」研究会を立ち上げるとともに、2008年8月に「IT リスクの考え方」という本を岩波新書として出しました。少しずつ検討は進み2年後に「IT リスク学入門」という本を書くのはできそうです。しかし、この分野への研究参加者が増え大きな研究成果が上がるかどうかはまだ見えません。この4月から新しい役職を兼務することになり、ますます忙しくなると思いますが、面白い分野なので引き続き IT リスク学の立ち上げに努力していきたいと思っています。

この9年間、色々な方に本当にお世話になってきました。今後ともよろしくご指導ご協力お願い申し上げます。

2010年3月



2. 研究室の構成と研究分野

■ 佐々木良一教授の略歴と研究分野

[略歴]

- ・昭和 46 年東京大学卒業
- ・同年日立製作所入所

システム開発研究所にてセキュリティ技術，ネットワーク管理システム等の研究開発 に従事 同研究所主管研究長兼セキュリティシステム研究センタ長

- ・東京電機大学未来科学部教授 工学博士（東京大学）
- ・情報処理学会論文賞，功績賞，電気学会著作賞，総務大臣表彰，情報セキュリティ文化賞などを受賞
- ・著書に，「インターネットセキュリティ入門」岩波新書，1999，「IT リスクの考え方」岩波新書，2008 等
- ・日本セキュリティ・マネジメント学会会長，情報ネットワーク法学会理事長，情報処理学会フェロー，日本ネットワークセキュリティ協会会長，IFIP TC11 日本特別代表，日本学術会議連携会員，日本ペンクラブ会員.



[研究分野]

1. 個人として強い興味を持っているテーマ
 - (1) 多重リスクコミュニケーターの開発
 - (2) デジタル・フォレンジックの研究
 - (3) IT リスク学の確立
2. 学生と一緒に進めてきた主なテーマ
 - (1) 2段階電子透かし方式の開発と評価
 - (2) 分散型ヒステリシス署名方式の開発
 - (3) 電子すみ塗りシステムの研究
 - (4) ボットネットに対する疫学的研究
 - (5) IP トレースバック技術の研究

■ 2009年度体制

[博士1年]

文倉 齊

[修士2年]

竹下 数明
西本 敬志

三原 元
吉岡 甲将

吉田 達央
佐久間貴士

[修士1年]

川上 昌俊
古澤 麻衣子

櫻井 裕唯
山中 徹也

村上 真教
名雲 孝昭

[卒業研究生]

小金谷夏子
田中 達哉

中村 圭吾
長谷部浩司

土方 広夢
森山 智弥

■ 2008年度体制

[博士3年]

芦野 佑樹

[修士2年]

植松 建至

谷山 充洋

藤田 圭祐

[修士1年]

竹下 数明
西本 敬志

三原 元
吉岡 甲将

吉田 達央
佐久間貴士

[卒業研究生]

川上 昌俊
古澤麻衣子
笹本 智
中村 俊博

櫻井 裕唯
山中 徹也
富永 子南
江口 慶

村上 真教
名雲 孝昭
田村 佑輔

3. 研究室の主な出来事

(1) 国際展開の実現

「国際展開の実現」を大きな目標の1つに掲げて推進してきたが、ほぼ目標を達成することができた。佐々木教授が General Chair を務めた IFIP (国際情報処理連合) WG6.11 主催の I3E2008 (IFIP 8th International Conference on e-Commerce, e-Business, and e-Government) は、2008年9月24日—9月26日に東京で開催され好評のうちに終了した。また、韓国で行われた F2GC 2009 (The 2009 International Workshop on Forensics for Future Generation Communication environments) 国際学会にも佐々木教授は General Chair を依頼された。

さらに、佐々木教授や学生の国際学会での発表も増え、2008年度、2009年度には研究室からの国際学会での発表がそれぞれ5件と6件になった。

発表者、論文名などは以下の通り。

[2008年度]

■2008.5

Mitsuhiro Taniyama et al.

Analysis of the Y2K problem from the viewpoint of risk communication
Sixth International Conference on RISK ANALYSIS 2008 (in Greece)

■2008.5

Ryoichi Sasaki et al.

Development and applications of a multiple risk communicator
Sixth International Conference on RISK ANALYSIS 2008(in Greece)

■2008.8

Kenshi Uematsu et al.

A proposal of Falsification Detection System in Structural Design
The Fourth International conference on Intelligent Information Hiding and
Multimedia Signal Processing (in China)

■2008.11

Mitsuhiro Taniyama, et al.

Application of “Multiple Risk Communicator” to Personal Information Leakage
Problem
SSCS2008(The Fifth International Conference on Security and Safety of Complex
Systems)

[2009 年度]

■2009.1

Yuki Ashino et al.,

Extension and Evaluation of Boot Control for a Digital Forensic System

ICDF2009 (in Florida)5th Annual IFIP WG11.9International Conference on Digital Forensics

■2009.8

Koushou Yoshioka et al.

Proposal and evaluation of a high-speed data erasure method for mass storage devices

JWIS:Joint Workshop on Information Security2009(in Taiwan)

■2009.9

Yusuke Kosuda et al.

Proposal and Implementation of SSH Client System Using Ajax

I3E2009(in France)

■2009.12

Maiko Furusawa et al.

Development of a system using the APIHook function to protect personal information leakage from USB memory

IWISA2009 in Korea(International Workshop on Information Security and Assurances).

■2009.12

Masanori Murakami et al.

Extention and Evaluation of IP Traceback Method Using Departure Stamp in Edge Router

F2GC2009in Korea (Forensics for Future Generation Communication environment)

■2010.1

Masatoshi Kawakami et al.

Development of an E-Learning Content-Making System for Information Security (ELSEC) and Its Application to Anti-Phishing Education

2010 International Conference on e-Business, e-Management and e-Learning

(2) ITリスク学研究会活動

ITリスク学を確立するために、日本セキュリティ・マネジメント学会の中に「ITリスク学」研究会を立ち上げるとともに、2008年8月に佐々木教授が「ITリスクの考え方」という本を岩波新書として出版。

ITリスク学研究会は、2008年6月の第1回から2010年3月まで9回開催した。

ITリスク学研究会のプログラムは下記の通り。



第1回平成20年6月28日(土) 東京電機大学

- (1) 特別講演: 中谷内一也氏(帝塚山大学 教授)「リスク心理学の動向」
- (2) 講演: 佐々木良一氏「ITリスク学とITリスク学研究会の進め方の構想」
- (3) パネル討論: 「ITリスク学はいかにすれば有益なものとなりうるか」

第2回平成20年10月04日(土) 東京電機大学

- (1) 特別講演: 松原純子氏(放射線影響協会、元原子力安全委員会委員長代理)「私の研究一疫学・リスク科学と積極的防御への道」
- (2) 講演: 中村達氏 (アイネス) 「ITリスクの落とし穴」
- (3) 講演: 矢島敬士氏 (東京電機大学教授)「リスクコミュニケーションにおける合意形成支援方式」
- (4) 講演: 杉本尚子氏 (アドイン)「多重リスクコミュニケーター用プログラムの開発と今後の展開」

第3回平成21年1月10日(土) 東京電機大学

- (1) 特別講演: 南直樹氏 (NHK 解説委員)「新型インフルエンザのリスクとマスメディア」
- (2) 特別報告: 谷山充洋 (東京電機大学)「多重リスクコミュニケーター (MRC) の適用教育」

第4回平成21年3月28日(土) 東京電機大学

- (1) 特別講演: 氏田博士氏 (財団法人エネルギー総合工学研究所)「原子力分野におけるリスク評価とヒューマンエンジニアリング」
- (2) 研究発表: (a) 渡辺夏樹, 吉浦裕 (電気通信大学) (b) 鹿野哲矢 (東京電機大学) (c) 西本敬志 (東京電機大学)

第5回平成21年5月28日～29日（株）インターネットイニシアティブ
第164回ソフトウェア工学・第45回コンピュータセキュリティ・第13回組込みシステム
合同研究発表会に共催参加

第6回平成21年6月20日（土）東京電機大学

- （1）特別講演：樋口晴彦氏（警察大学校 警察政策研究センター）
「新・組織行動の「まずい!!」学—どうして失敗が繰り返されるのか—」

第7回平成21年9月19日（土）東京電機大学

- （1）講演：名和利男氏（サイバーディフェンス研究所）
「最近のサイバー攻撃の実態とその考察について」
- （2）講演：佐々木良一（東京電機大学）「文献に見るリスクと人間」
- （3）講演：田辺直久氏（東京電機大学）
「リスクコミュニケーションにおける合意形成支援手法」

第8回平成22年1月16日（土）東京電機大学

- （1）講演：山崎由喜氏（ティーjee情報ネットワーク）
「グローバル化時代の企業リスク」
- （2）講演：佐々木良一（東京電機大学）「クラウドとITリスク」
- （3）講演：千葉寛之氏（日立製作所）「ITリスクを考える」
- （4）講演：磯貝雄治氏（情報セキュリティ大学院大学）
「一般消費者向け Web サービスにおける認証情報の盗難を前提としたなりすまし対策
に関する考察」

第9回平成22年3月20日（土）東京電機大学

- （1）講演：指田朝久（東京海上日動リスクコンサルティング㈱）
「危機管理の概要と最近の動向」
- （2）講演：佐々木良一（東京電機大学）「ITリスク学試論—ITリスク学研究会の活動と文献調査を通じて」
- （3）討議：全員「ITリスク学のあり方と研究会の進め方に関する討議」



(3) 研究の質の向上—論文掲載(9 論文)

真に必要で他であまりやっていない研究を実施し、企業や他大学と協力し世の中に通用する水準の維持に努めてきている。毎年 3 件程度の論文の採択があるが、2008 年度は 6 件、2009 年度は 3 件と順調な採択数となった。
掲載論文は以下の通り。

[2008 年度]

■2008.9 佐々木良一他

多重リスクコミュニケーターの開発と適用
情報処理学会論文誌第 49 号第 9 号

■2008.9 ハン 博文他

I P トレースバックのための出国印方式の試作と評価
情報処理学会論文誌第 49 号第 9 号

■2008.9 高塚 光幸他

開示情報の墨塗りと証拠性確保を両立させる e-Discovery システムの提案
情報処理学会論文誌第 49 号第 9 号

■2008.9 植松 建至他

構造計算書不正検知システムの提案
情報処理学会論文誌第 49 号第 9 号

■2009.1 小須田優介他

Ajax を用いた S S H クライアントシステムの提案と実装
情報処理学会論文誌第 50 号第 1 号

■2009.3 守谷 隆史他

内部統制のための多リスク・多関与者を考慮した費用対効果の評価法の提案と適用
日本セキュリティマネジメント学会誌 Vol. 22, No. 3

[2009 年度]

■2009.9 谷山充洋他

多重リスクコミュニケーターの企業向け個人情報漏洩問題への適用日本セキュリティマネジメント学会誌 VOL. 23, No. 2

■2009.9 谷山充洋他

多重リスクコミュニケーターの教育方法の提案と分析
日本セキュリティマネジメント学会誌 VOL. 23, No. 2

■2010.1 田村 佑輔他

ユーザ標的型 Web サイト改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案
情報処理学会論文誌第 51 号第 1 号

(4) 佐々木教授の受賞と各種委員の就任

佐々木教授は、2007年度は総務大臣賞、「情報セキュリティの日」功労者表彰を受賞されたが、引き続き、2008年度情報セキュリティ大学院大学「第5回情報セキュリティ文化賞」、2009年度情報処理学会功績賞、など受賞された。



[佐々木教授の受賞]

■2009年4月

平成20年度情報処理学会功績賞

「佐々木良一君（フェロー）は、永年にわたり情報セキュリティ分野の研究に携わり、数多くの優れた業績を挙げてこられました。株式会社日立製作所、東京電機大学のみならず学会活動を通して、情報セキュリティ技術の向上と人材育成に尽力されるとともに、我が国の情報セキュリティ政策策定にもかかわり、産学官にわたり、我が国における情報セキュリティの発展に貢献をされました。また、「インターネットセキュリティ入門」や「ITリスクの考え方」（岩波書店）など情報セキュリティにかかわる専門書から啓発書籍まで多数執筆しています。さらに、同君は我が国の情報セキュリティ政策会議「技術戦略専門委員会」委員長として情報セキュリティにかかわる研究開発・技術戦略とその成果の利用方法に関する戦略のとりまとめにおいて中心的な役割を果たされる等、産学官にわたり、当該分野の発展に貢献されています。

本会においては、コンピュータセキュリティ研究会主査、理事（平成15～16年度）、IFIP TC 11日本代表などを歴任されています。平成13年度論文賞を受賞し、平成14年度にはフェローの称号を授与されています。また、国際的には、IFIP主催の情報セキュリティ分野で著名な国際会議20th IFIP International Information Security Conference (SEC2005)の組織委員長を務められました。さらに、欧米で始まった新たな情報セキュリティの分野であるデジタルフォレンジックを我が国に紹介し、その普及にも尽力されています。」

■2009年3月

情報セキュリティ大学院大学 「第5回情報セキュリティ文化賞」

「日立製作所在籍時より東京電機大学教授着任後を通じ、研究者および教育者として情報セキュリティ技術の向上と人材育成に尽力されていることに加え、一般向け啓発書の上梓、また、情報セキュリティ政策会議「技術戦略専門委員会」委員長として情報セキュリティに係る研究開発・技術戦略とその成果の利用方法に関する戦略のとりまとめにおいて中心的な役割を果たされる等、産学公にわたる業績により、わが国社会全体における情報セキュリティの発展に広く貢献をされた」

[佐々木教授の各種委員への就任]

佐々木教授の学会や政府関係の委員など就任状況は、下記の通り。

■IFIP（情報処理国際連合）TC11 Additional Representative from Japan

■日本セキュリティマネジメント学会会長

■情報ネットワーク法学会理事長

■デジタルフォレンジック研究会理事

■情報処理振興事業協会(IPA) 「情報セキュリティ関連事業推進委員会」委員長

■内閣官房経済産業省セキュリティ技術戦略専門委員会（委員長）

■日本ネットワークセキュリティ協会会長

■日本学術会議連携会員

(5) 学生の外部からの表彰

2007年度から外部からの学生の表彰が増加しているが、2008年3件、2009年5件と受賞した。受賞者及び受賞内容は以下の通り。

[2008年度]

■芦野佑樹

2008年6月

情報処理学会 DICOMO 2008 ベストプレゼンテーション賞

デジタルデータ証拠保全プラットフォーム『Dig-Force シリーズ』の開発と評価

■芦野佑樹

2009年2月

日本セキュリティ・マネジメント学会第一回辻井重男学生論文賞セキュリティマネジメント学生賞

セキュリティデバイスとヒステリシス署名を用いた デジタルフォレンジックシステムの提案と評価

■小須田優介

2009年3月

情報処理学会山下記念研究賞 (→右写真)

Ajax を用いたSSHクライアントシステムの提案と実装



[2009年度]

■三原 元 名雲孝昭 田中達哉

2009年6月

第13回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム「ひらめき賞」危機管理コンテスト

■古澤麻衣子

2009年7月

情報処理学会のシンポジウム DICOMO2008 ヤングリサーチャ賞

APIHook を用いた USB メモリからの個人情報漏洩対策システムの開発

■桜井 裕唯

応用セキュリティフォーラム研究シーズ発表会 3位

■三原 元 名雲孝昭 田中達哉
2009年10月
情報処理学会MWS2009
マルウェアによる不正侵入対策コンテ
ストMWSカップ2009優勝
(→右写真)



■田村 佑輔
2010年3月15日
日本セキュリティ・マネジメント学
会セキュリティマネジメント学生論
文努力賞
ユーザ標的型 Web サイト改ざんに
対する検索エンジンを用いた検知手法の提案

[ASFアワード受賞記念最優秀賞]

2005年度より設置されたASFアワード受賞記念最優秀賞の、2008年度、2009年度の受賞者は以下の通り。

■2008年度 田村 佑輔
論文名：ユーザ標的型 Web サイト改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案

■2009年度 田中達哉
論文名：改ざんサイト自動検知システム DICE の開発と評価

(6) マスコミの取り上げ

2010年2月日経新聞13面科学欄に、当研究室が開発した、「改ざんサイト自動検知システム DICE」が紹介された(右図)。閲覧するとウイルスに感染するように改ざんされたホームページを事前に検知するソフトを開発したもので、見てもわからないよう命令を埋め込むなど、改ざんの典型的な手口を解析し、これに当てはまるホームページを自動的に見つけ、利用者が閲覧しようとする前に接続を止めるもの。改良版とともに来年実用化をめざす。

その他、マスコミなど主な掲載実績は下記の通り。



2008. 5	新聞掲載	佐々木良一	情報セキュリティ(上)(下)	電波タイムズ5月16日、5月19日、週刊「東洋経済」
2008. 10	インタビュー	佐々木良一	メールセキュリティ対策	週刊「東洋経済」
2008. 10	新聞掲載	佐々木良一	書籍紹介「ITリスクの考え方」	セキュリティ産業新聞
2008. 11	コメント	佐々木良一	うっかり公開-流出リスク認識必要	読売新聞11月17日
2008. 11	コメント	佐々木良一	「漏らすな情報、閉ざすな心」の精神で	日経ネットPlus「インタビュー領空侵犯」
2008. 11	コメント	佐々木良一	グーグルマップ情報流出	産経ニュースMSN
2009. 1・	コメント	佐々木良一	グーグルマップ情報流出	日本テレビニュース
2009. 2	モデレータ	佐々木良一	「電子政府推奨暗号」は2つで十分?—シンポジウム	日経BP ITpro「セキュリティ」
2009. 7	コメント	佐々木良一	サイバー攻撃防げるか	読売新聞7月14日朝刊

寄稿

先生に大変な思いをさせたこと、 研究室から学んだこと

芦野佑樹



私は、博士後期課程の学生として2004年4月から2009年3月までの5年間在籍していました。

在学中、さまざまなイベントがありましたが、やはり学会活動は中でも特に楽しいものです。研究発表という場を経験できるのは言うまでもなく、普段は行かないような所にも出かけられます。

私も何度も学会に行かせてもらいましたが、その中で最も佐々木先生に大変な思いをさせてしまった事例を今回は紹介しようと思います。

2009年01月。アメリカのフロリダ州に学会発表に行ったときです。この学会には、佐々木先生、藤田君、そして私との3人で行きました。

フロリダ州に到着した翌日は夜までフリータイムです。

近くには、ケネディー宇宙センターや、ディズニーワールドがあります。

到着した晩、夕食を取りつつ、三人で明日どこに行こうか、と相談しました。

私は、現地のTVで「宇宙は君たちを呼んでいる！」みたいなCMをやっていたケネディー宇宙センターを主張しましたが、先生曰く「つまらない」そうです。「エプコットセンターがいい」と先生が強く勧めるので、そちらに行くことにしました。

エプコットセンターとは、フロリダ州にあるディズニーワールド内のテーマパークの一つで、科学的な要素の強い展示が多いのが特徴です。

ちなみに、後から分かったことですが、ケネディー宇宙センターは宿泊場所から信じられないくらい遠くにあるそうです。考えてみれば、打ち上げに失敗して爆発する可能性もあるわけですから、ディズニーワールドの近くにあるはずありません。往復の時間を考えれば、妥当な選択だったと思います。

エプコットセンターに到着してから、我々ははしゃぎ過ぎました。

それが、その後の悲劇を招いたのかもしれない。

→悲劇の約1時間10分前に撮影された写真です。この時、私たちははしゃぎ過ぎてました。

一番初めに入ったのが、「人類の通信技術の歴史を知る」みたいなとこ



ろです。大人でも十分に楽しめるものです。そこで、さらに舞い上がった私たちは、次に激しいアトラクションに挑戦することにしました。

その内容は、火星の基地に着陸するとかそんな内容だったと思います。

アトラクションの入り口に行くと、ノリノリの説明員が私たちに英語で説明してくれています。そして、「グリーン」と「オレンジ」のカードを提示してきました。グリーンの方は「スピンの弱い」、オレンジの方は「スピンの強い」とのしゃべっているようでした。ただ、どうしても「火星に向かうこと」と「スピン」と「強弱」という言葉が結びつかず、私たちは（正確にはよく理解していなかった私が）「ノープロブレム」を連呼したわけです。成り行きで「オレンジ」のカードを手にした我々は、建物の中に入りワクワクドキドキしながら、先に進んでいくわけです。



→これが「オレンジ」のカードです。執筆中に気付きましたが「More Intense Training（より強烈なトレーニング）」と書いてますね。

乗り込む直前に気づいたことは、アトラクションは遠心分離機みたいなのに乗り込み、フライトシミュレーションよろしくグイングイン動かされるものだったのです。さっきの、グリーンとオレンジは、この遠心分離機の強度の違いでした。

いよいよその巨大な遠心分離機に乗り込み、アトラクションスタートです。

もう、すごいわけです。体にかかる重力は相当なもので、手が重たくなるのを感じるくらいです。さすがは「より強烈なトレーニング」です。私が操縦かんを上下左右に動かすと、体も上下左右に揺さぶられます。「本当に宇宙船に乗ったみたい！」

地面に激突するも、なんとか無事に火星に着陸しました。画面上のスタッフたちも拍手で私たちに火星を迎えてくれます。

「いやー、終わった終わった」と笑顔で遠心分離機から降りたとき、ふと先生を見ると…。

先生が大分参ってました…。

本当にごめんなさい…。私たちがはしゃぎ過ぎました…。



→アトラクションから出てから10分ほど経過したときの写真です。先生は笑っていますが、すごく無理されているのがお分かりだと思います。

その後、私たちがほかのアトラクションではしゃぎまわっている間、先生はこのベンチに座ってずっと休まっていたそうです。

戻ってきた私たちに、先生がおっしゃったこと。

「火星は遠いねえ…」

その翌日、何事もなかったかのように、私の発表は無事に終わりました。

今でも、あの時、「グリーン」のカードを選択していたら、きっと楽しいエプコットセンターだったのではないかと後悔しているわけです。

→フロリダの空はとても高かったです。



話は変わりましたが、私が研究室から学んだことを書こうと思います。

私は、大学を卒業してから会社に勤めていました。キャリアアップを考えていたので、昔から興味があった情報セキュリティの分野を大学院で学びたいと思っていました。ただ、仕事を辞めてしまうと、収入が減るばかりか、仕事から知識や技能を得る機会が失われてしまうとも思っていました。そこで、仕事をしながら通える大学院を探すことにしました。大学院を本格的に探し始めたのは2003年7月ごろです。私が、まだ23歳のことでした。

大学院の候補はいくつかありました。その中で、たまたまオープンキャンパスが近日開催だったこと、セキュリティの研究室（まさに、「情報セキュリティ研究室」です）があったこと、そして佐々木先生に連絡をしたらすぐにお返事をいただいたという理由から、東京電機大学を選びました。理由は、本当にそれだけです。お恥ずかしい話ですが、オープンキャンパスで佐々木先生とお話しするまで、先生がどのような経歴をお持ちなのかすら知りませんでした。

それから、5年間もの長い間、研究室には大変お世話になりました。この研究室が、博士号やお嫁さんまで縁のある所とは夢にも思いませんでした。

このように研究室から大きな影響を受けたせいか、最近強く思うことがあります。それは、「自分の選んだ道は、結果としてその後の自分にすごく大きな影響を及ぼす」ということです。考えてみれば至極当たり前のことなのですが、この当たり前のことがわかるまで、実に5年間かかりました。そして、それをわからせてくれたのは、情報セキュリティ研究室、そのものです。

研究室に在籍しているみなさんにお伝えしたいことは、今やっている研究は将来の自分によい影響を与えていると思いつつ一生懸命に取り組んでほしいと思っています。

また、ちょくちょく遊びに行かせてもらおうので、その時は構ってやって下さい。

2010年3月

博士論文執筆を終えて

谷山 充洋



この度、博士論文の執筆及び公聴会での発表を無事終えることができました。熱心にご教授してくださいました佐々木先生に改めてお礼申し上げます。佐々木先生は、休みの日にも私の論文を確認・修正してくれ、一体いつ休んでいるのだろうと思っていました。同時に、休みの日にまで対応してくれたことにとっても感謝しています。また、発表の準備を手伝ってくれた研究室の後輩方、博士論文にチャレンジするにあたり色々な相談にのってくれた芦野さんにも非常に感謝しております。今回の博士論文は本当に色々な方に助けられ、完成させることができました。

私が今回、論文博士の資格（査読論文3本）を早い段階で満たすことができた理由を自分なりに考えてみました。

まず1つ目は前述しましたが、先生や研究室の仲間といった人たちに恵まれていたからです。情報セキュリティ研究室で学ぶことができ本当に良かったと思っています。

2つ目は、自分で言うのも恥ずかしいですが、粘り強く研究することができたからだと思っています。私は、昔から勉強はできる方ではなく、人よりも理解するのが遅いと感じています。しかし、研究では自分のこういった弱点を補うために、勉強量という点で他の人たちよりも努力することを心がけていました。

3つ目は、研究を楽しんでいたからです。多重リスクコミュニケーターという非常に興味を持てる研究テーマがあったので、研究が楽しかったです。

今回私が感じたことは、良い仲間たちと共に、何かを楽しんで粘り強くやれば、よい結果を残すことができるということです。研究室の後輩たちも是非こういったことを意識してみてはどうでしょうか。もちろん人それぞれなので、当てはまらないケースも多いですが。

これからは研究とは少し離れることとなりますが、研究室での経験を仕事にも活かしていければと考えています。

右の写真は国際学会でパリに行った時の写真です。

私は多くの方々による助力があったからこそ現在の研究結果を得ることが出来たのだと思います。末筆となりましたが、3年間様々な機会を与えてくださった佐々木教授、技術的な面でご助言頂いた京都大学助教授 上原先生、研究生活においてお世話して頂いた先輩方にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。



国際学会を経て

吉岡 甲将



自己紹介

私は現在修士課程2年でデータ抹消の研究を行っておりました。私は本研究室に所属する以前は情報セキュリティに関しての知識は浅いものしか持っていませんでした。しかし、研究室選択の際に「折角なら詳しくない分野を学ぼう」と思い情報セキュリティを選びました。その結果、IT分野において情報セキュリティが如何に重要であるかを知ることが出来た上、様々な面で自身が成長出来たことを実感しております。現在は研究室を去る寂しさを感じながら、来春からの新生活に向けて準備を進めております。ここでは、国際学会に参加した際の経験を書き記したいと思います。

国際学会への参加

私は2009年8月に台湾・高雄で行われた「Joint Workshop on Information Security 2009」にて発表させて頂きました。発表にあたり一番の不安となった事は、英会話が出来ない自分に務まるのかという事でした。発表に関しては予め作成した原稿の内容を円滑に話せれば良い為、大きな不安はありませんでした。しかし、質疑応答は相手の質問に対しその場で内容を理解し英語で返す必要があります。良く聞かれそうな内容についてはしどろもどろながら答えられたものの、質問内容が長いものについては全容を把握出来ず上手く答えられませんでした。その場は教授に助けられましたが、自身で答えられなかった恥ずかしさと悔しさは今も覚えています。

国際学会に参加した事で、世界の研究レベルや発想・考え方の違い、また自分がどの程度の力を持っているのかを知ることが出来ました。今後も英語の得手不得手を理由に海外を敬遠せず、寧ろ積極的に飛び込めるくらいの気概を持って行動したいと思います。余談となりますが、台湾滞在中は史上最大の台風が来襲していた為、市街などを巡る機会が持てなかった事が非常に残念です。

最後に



私は多くの方々による助力があったからこそ現在の研究結果を得ることが出来たのだと思います。末筆となりましたが、3年間様々な機会を与えてくださった佐々木教授、技術的な面でご助言頂いた京都大学准教授 上原先生、研究生活においてお世話して頂いた先輩方にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います

研究の芽が出るまで

小須田 優介



はじめに

私が ISL に所属していたのは学部 4 年だった 2008 年度になります。2 部 C 科の学生だったため、ISL は他学科でしたが、セキュリティ技術に興味があったので、お世話になることに決めました。

研究テーマ模索と物作りの日々

研究テーマの模索は 9 月まで続きました。当時は Web2.0 や Ajax という言葉が流行っており、これを利用したセキュリティに貢献出来る仕組みとして、Ajax を用いた SSH クライアントの実現を考えました。純粹にセキュリティの問題を扱う内容ではないため、テーマとして相応しいのかと迷いましたが、疫学研究会で話をしたところ、やってみれば良いのではないかと背中を押して貰うことが出来ました。

テーマが決まり物作りを始めたものの、この仕組みに必要となる Ajax や非同期ソケット、暗号化などの技術を扱ったことがありませんでした。自分の力ではできないのではないかとも思いましたが、ここが踏ん張りどころだと気持ちを入れ、年末の休みからは一日中 PC に向かい、年明けには何とか動く物が出来上がりました。

学会発表～論文採録～山下記念研究賞～海外発表

卒業間近の 3 月に京都で行われた学会（CSEC40）で発表しました。デモを行った効果もあり、興味を持ってくれた人とセッション後にも色々話が出来ました。

卒業式後の 3 月末に論文誌へ投稿し、条件付き採録を経て、2009 年の 1 月号に掲載されました。また、CSEC40 での発表に対して山下記念研究賞を頂くことが出来ました。卒業後の 2009 年 9 月末には、フランスのナンシーで開かれた I3E 2009 という国際学会で発表しました。発表自体は何とか終わりましたが、質疑応答では回答の言葉が中々出てきませんでした。英語はいつ使うか分からないので、勉強していこうと思います。

おわりに

振り返ってみると、テーマ探しや物作りでの苦労はあったものの、自分が思ったことをやりきって成果が出たというとても幸せな結果となりました。



研究には画期的な仕組みや利点の他にも言葉にはしづらい「魅力」があります。今、研究をしている人はこれを見失わず、さらに共感してくれる人を見つけて進んで行き、良い結果に繋げて欲しいと思います。

最後になりますが、佐々木先生をはじめ、多くの方々にお世話になりました。ここに改めて感謝を述べて、締めとさせて頂きたいと思います。

MWSCup2009総合優勝を振り返って

三原 元



今回、私と名雲、田中の3名は、CSS2009(コンピュータセキュリティシンポジウム2009)にて開催されたMWSCup2009(マルウェアによる不正侵入対策コンテスト)に参加しました。コンテストは、まず午前中に、各チームに解析用通信データ10種が配布され、全チーム一斉に解析を開始します。そして制限時間内に(1)攻撃通信データを探し出せ、(2)マルウェア名を言え、(3)今後の通信パターンを選択せよ、の3問に関して、選択式で回答します。午後には、各チームが行った解析手法をプレゼンテーションし、アピールを行います。そして審査委員の方々は、各チームの解析結果とプレゼンテーションの結果を総合的に判断して、成績をつける、という方式でした。

出場するからには下手な成績を残してはいけないという佐々木先生の暗黙のプレッシャーを受けつつ自分達は対策を練って行きました。しかし実際には、3人の予定が合わずに、学会出発前日だけでなく、会場の富山に到着してからも、宿泊先ホテルの一室にて、夜遅くまでコンテスト対策を行っていました。

MWSCup2009には、私達チームの他に、慶応大学や東海大学の学生チームだけでなく、KDDI 研究所や IJ といった社会人チームも参加されていました。当初優勝するのは KDDI 研究所の方だと誰もが予想していました。実際 KDDI 研究所の方も、ご自分が優勝すると疑うことなく、優勝賞品の T シャツ(写真参照)のサイズをご自分のサイズに合わせて準備をするという念の入れようでした。しかしこの大方の予想を覆し、私達「東京電機大学三原チーム」が総合優勝を果たしました。

謝辞

今回私達は MWSCup2009 にて、総合優勝という結果を残すことができました。この結果

を残せたのは、私一人ではもちろんできず、名雲君、田中君の力があってこそのもだと思います。また、日頃ご指導を戴いている様々な方のお力によるものであると思います。本当にありがとうございました。



佐々木研究室での1年を振り返り

田村 佑輔



私が佐々木研究室を卒業してもうすぐ1年が経ちます。今思い返すと、研究室での1年間は大学生活の中で最も充実した日々でした。

一番思い出深いのは CSEC(コンピュータセキュリティ研究会)での論文発表です。研究室に配属になった当時、私は研究テーマがなかなか決まらず焦っていました。あるとき、勉強会で Web サイトに対する新種の攻撃があるという話を聞き、これを研究テーマとしました。しかし、これまでになかったタイプの攻撃ということで、これについての資料や情報はほとんどなく、ほぼ手探り状態からの始まりでした。データを集めてもほとんど使い物にならず愕然とし、予想していたものと違う結果が出て途方に暮れてしまうことが何度もありました。しかし、そんなときに決まって助けてくれたのが、佐々木先生や先輩方、そして同期の仲間でした。研究に関するアドバイスはもちろんのこと、精神的な面でも支えていただきました。そして、その支えのおかげで卒業研究「ユーザ標的型 Web サイト改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案」を作り上げることができ、更には、CSEC という大舞台で発表する機会もいただくことができました。学部生でありながら学外発表という貴重な経験をさせていただけたことは大変光栄なことであり、助けていただいた皆さんには本当に感謝したいと思います。また、この研究は、情報処理学会の論文として採用されると共に、日本セキュリティ・マネジメント学会セキュリティマネジメント学生論文努力賞も受賞することができました。

勿論、研究だけではなく研究室での生活・イベントなどでもたくさんの思い出があります。寒さに震えながら酒を飲んだ夜のお花見、研究室で夜を明かしたゲーム大会、ネギの切りすぎで涙が止まらなかった鍋パーティー...etc 語りだしたらキリがありませんが、どれをとっても良い(?)思い出です。そして、佐々木研究室での出来事一つひとつが、私自身を一人の人間として大きく成長させてくれました。ここで過ごした1年間は一生忘れることはないだろうと思います。最後に、私を支え、叱咤激励してくださった佐々木先生、芦野さんをはじめとする研究室メンバーに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



国際学会とその前後

川上 昌俊



私の研究 私は「情報セキュリティ教育のための拡張性・柔軟性が高い e ラーニングシステムの研究」をテーマに研究を行っています。特に現在は、アニメーションが容易に使える Flash ベースの e ラーニング作成システムの開発と改良をメインで行っています。開発当初は 5 千行程度を見込んでいたシステムでしたが、機能の追加などを繰り返しているうちに 1 万行を超えてしまいました。しかし、その分、使いやすいシステムとなってきていることが、学部生による適用と評価からも証明されました。

国際学会前 私は 2010 年 1 月に中国の三亜で開催された国際学会 "International Conference on e-Education, e-Business, e-Management and e-Learning (IC4E 2010)" で発表を行いました。それまでには様々な苦労がありました。英語で論文を書くことはもちろん大変でしたが、それ以上に英語で発表することに自信がなかった私は、発表練習に相当時間を割きました。自分の発表練習の声を IC レコーダーで録音し、それを聞き、不自然なところを修正し、また録音、そしてまた修正、の繰り返しでした。そんな日々の練習で体力がなくなっていたためか、中国へ行く 5 日前に風邪をひいてしまいました。2 日前に咽頭炎で声が出なくなった時はどうしようかと思いましたが、何とか発表当日までに症状を改善させることができました。

国際学会当日 事前の情報では「発表は 15 分間」だったため、15 分程度で発表できるスライドを用意していました。ところが、私が発表するセッションの出席者が多かったため、セッション開始直前に「発表は 10 分間」に変更になってしまいました。それから自分の発表までに必死に発表内容を再考し、可能な限り発表を短縮しました。それでも発表時間は 12 分程度となってしまいました。無事発表を終えることができました。本当に発表直前までバタバタしましたが、今では良い思い出です。



国際学会後 国際学会から帰ってきてすぐに、修士論文発表会の準備の取りまとめや就職活動など、様々なイベントがあり、気が抜けない毎が続いていますが、研究室の皆様のサポートのお陰で、何とかこなせています。この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。今後も、できる限りのことを行っていきたく思いますので、お力添えをお願いいたします

表彰と国際講演

古澤 麻衣子

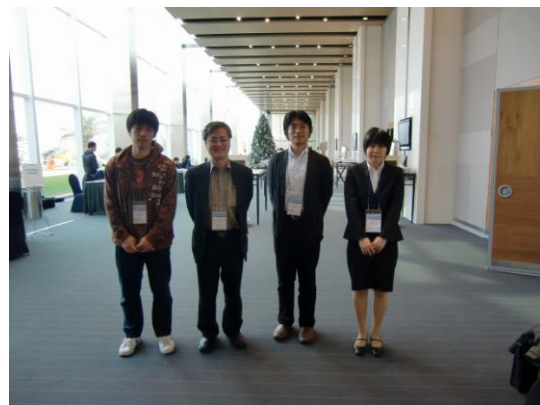


自己紹介 私は現在修士課程1年でデジタル・フォレンジックグループに所属して、研究を行っています。研究室に入る前は、「プログラムを書く能力が著しく低い」、「人前で話せない」「どんな研究をそもそしたら良いのか分からない」という問題を抱えていましたが、先生や先輩方に助けて頂くことで、少しずつですが改善することができ、学会発表に繋がったのではないかと思います。

研究成果1：ヤングリサーチャー賞受賞 私は、1つ上の先輩の鈴木さんの研究を引き継ぐ形で「USBメモリからの個人情報漏洩対策システムの開発」の研究を始めました。研究を始めた当初は、「先輩のプログラムがそもそも読めない、理解出来ない」「対応するアプリケーションを変えた途端に動かない」等の問題に直面してしまい、一人では解決方法が全く検討もつかず、途方に暮れてしまいました。しかし、先輩方から色々アドバイスを頂き、様々な方法で地道に検証を続けることで、問題を解決することができ、その成果が学会発表に繋がりました。また、人前で話すのが、本当に苦手だったため、学会で発表すること自体が脅威だったのですが、拙い発表を何度も聞いて、修正点を挙げて下さった先生や先輩方のおかげで、発表に自信を持つことができ、それが、賞の受賞に繋がったのではないかと思います。

研究成果2：国際学会での発表 発表は、韓国で行われました。国際学会での発表が決まった時は、嬉しさよりも「自分の英語能力で、自分の研究内容を周りに伝えることができるのだろうか」という不安のほうが大きかったです。しかし、先生との発表練習を重ねることで、英語が苦手でも、相手に伝わるような発表スライドを作成することが出来るようになり、そのおかげで、当日は、ほぼ問題なく発表ができたのではないかと思います。

今後の抱負：今までの研究成果は、先生や先輩方の支えなしには、成立しませんでした。今後もより良い研究ができるよう努力を重ね自分が支えて頂いた分を後輩や周りの人達に返していけるよう頑張ろうと思います



濟州島発表の手記

村上 真教



佐々木教授に「国際学会で発表してみませんか？」というお誘いをきっかけに修士1年生の時に取り組んだネットワークセキュリティの研究では、自分の研究を発表して他の研究者から意見をもらうために、国内研究会だけでなく国際学会でも研究発表を行うことにしました。



しかし国際学会での発表を決めた時には、研究発表の経験も少なく、英語のスピーチにも慣れているわけではありませんでしたので、発表資料の作り方やプレゼンテーションのやり方などが分からず悩みました。初めに作成した資料での練習発表では、「発表内容が分かりにくい」と教授から厳しい指摘を受けました。そこで、他国の人にも理解しやすい発表資料にするために、教授に何度も相談してア

ドバイスを貰いながら資料を修正しました。また、発表の悪い部分を客観的に見つけるために、自分の発表をビデオに撮影し、それを見直しながらプレゼンテーションの練習を重ねました。録画したビデオを再生してみると、「エー」を言う回数が多いことや図が足りていないことに気づきました。ビデオ撮影とスライド修正を5, 6回繰り返して再び教授の前で発表したら、「いきなり発表の質がぐんと良くなった」と褒められました。本番の国際学会の間でも自信を持って発表することができました。

このように、私は自分に経験がないことや苦手だと考えていることに対しても、常に前向きに取り組んでいくように心がけています。社会人になって仕事に取り組む際にも、こうした積極的な姿勢で目標への到達や課題の解決を目指していこうと考えています。



ASF アワード受賞記念

2009 年度最優秀卒業研究賞受賞の言葉

田中 達哉



この度は、ASF アワード受賞記念 2009 年度最優秀卒業研究賞を戴き、大変光栄に思います。私の研究テーマは研究室 OB の田村さんが研究されていた「ユーザ標的型 Web サイト改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案」という研究を引き継いだものとなっています。研究室配属時はボットネットに関する研究に興味があったのですが、田村さんのやっていた研究の話しを聞かせて頂き、興味が出て引き継ぐことにしました。しかし、実際に研究を進めてみると収集データの結果があまり良くなかったり、実装がうまくいかなかったりと苦労する点はたくさんありました。そんな時に先生や先輩方に助けて頂き、10月に行われた CSS で研究発表することが出来ました。発表本番までに何度か発表練習したのですが、他大学の方や企業の方も来ていたため、練習の時とはまったく空気が違っていました。発表自体はお世辞にも良いと言えるものでは無かったのですが、たくさんのコメントを戴き新たな問題点などを知ることが出来ました。

また発表以外でも、三原さん、名雲さんと危機管理コンテストやマルウェアによる不正侵入対策コンテスト MWS Cup2009 にも参加し受賞することができ、学部での3年間で学んだ以上のことが学べた1年間となりました。

今後は国際学会で発表が出来るように研究を進めていきたいです。英語が得意ではないのでこれから勉強していかないといけないですが。。

研究室の配属がこの ISL になった事を本当に感謝しています。今回の賞も自分1人の力では戴くことが出来ませんでした。沢山の方々の助けがあったからこそ、戴くことが出来ました。

本当にありがとうございます。



4月から修士1年になるので、先輩方に助けてもらったように、後輩達を助けていけるような先輩になることが目標です。

4. 研究成果(2001/4~2010/3)

■ 著作

No.	発表年月	区分	発表/執筆者	題名	発表先
1	2002	単行本	佐々木良一	私のおすすめパソコンソフト」第1章セキュリティソフト	岩波アクティブ新書編集部編
2	2002	単行本	佐々木良一	日経バイト編「セキュリティ用語辞典」(執筆分担)	日経BP出版センター
3	2003.06	単行本	佐々木良一	2階層電子透かしの発想	アスキー「ポイント図解式コンテンツ流通教科書」コラム欄
4	2003.06	単行本	土居 範久 (監修) 佐々木良一 (代表編)	情報セキュリティ事典	共立出版
5	2003.10	単行本	宮地 充子 菊池 浩明 (編著)	IT Text 情報セキュリティ」 (執筆分担)	Ohmsha
6	2004.11	単行本	電子情報通信学会編 (幹事・執筆者)	「情報セキュリティハンドブック」6編2章「セキュリティ教育」	オーム社
7	2005.04	単行本	佐々木良一 (監修) 日本ネットワークセキュリティ協会教育部会(編著)	情報セキュリティプロフェッショナル総合教科書	秀和システム (序章執筆)
8	2005.04	単行本	Ryochi Sasaki, Sihan Qing, Eiji Okamoto, Horoshi Yoshiura	Security and Privacy in the Age of Ubiquitous Computing	Springer
9	2006.4	単行本	佐々木良一 矢島敬士 佐々木卓行	新二版情報科学入門	日本理工出版会

10	2006.12	単行本	執筆分担 (第一章執筆、第4章執筆分担・とりまとめ)	デジタル・フォレンジック事典	日科技連出版
11	2008.8	単行本	佐々木良一	ITリスクの考え方	岩波新書
12	2009.3	教科書	佐々木良一監修	情報セキュリティプロフェッショナル教科書—日本ネットワークセキュリティ協会教育部会著	アスキー・メディアワークス
13	2009.10	単行本	佐々木良一監修、会田和弘著	情報セキュリティ入門 情報倫理を学ぶ人のために	共立出版
14	2010.3	単行本	Mitsuhiro Taniyama, Rryoichi Sasaki	Edited by Maurizo A. Strangio “Advanced Technologies” Chapter26 “Application and Education of “Multiple Risk Communicator”	IN-TECH

■ 論文

No.	発表年月	区分	発表/執筆者	題名	発表先
1	2001.3	論文	鍛 忠司 洲崎 誠一 梅沢 克之 近藤 勝彦 手塚 悟 佐々木良一 鬼頭 昭	分散オブジェクトシステムにおけるモバイルコード用セキュリティ機構の提案	情報処理学会論文誌、第42巻第3号 vol42, no3, pp586-594, 2001年
2	2001.8	論文	佐々木良一 宝木 和夫	印鑑と電子印鑑の歴史と類似性の分析	情報処理学会論文誌、42巻、8号、 pp1968-1974、 2001年
3	2001.8	論文	越前 功 吉浦 裕 安細 康介 佐々木良一	分布推定手法を用いた電子透かしの検出誤り確率推定方式	情報処理学会論文誌、42巻、8号、 pp2006-2016、 2001年
4	2001.8	論文	梅澤 克之 鍛 忠司 藤城 孝宏 近藤 勝彦 洲崎 誠一 手塚 悟 佐々木良一	CORBA セキュリティポリシー管理ツールの実装	情報処理学会論文誌、42巻、8号、 pp2077-2085、 2001年
5	2002	論文	佐々木良一	印鑑と電子印鑑の歴史と類似性	警察政策学会、警察政策、第4巻、第1号、 pp231-249、 2002年
6	2002.08	論文	越前 功 吉浦 裕 田口 順一 中野 和典 佐々木良一	動き検出に基づく動画用電子透かしの画質維持方式	情報処理学会論文誌、第43巻第8号 pp2529-2541、 2002年
7	2002.08	論文	佐々木良一 吉浦 裕 伊藤 信治	不正コピー対策の最適組合せに関する考察	情報処理学会論文誌、第43巻第8号
8	2003.07	論文	渡邊 浩朗 加藤 貴法 佐々木良一 江口 雄介 安永 洋平 吉田 兼也	P2P環境下における動的グループ生成用暗号利用方式の評価	情報処理学会論文誌第44巻第8号 pp2155-2162、 2003年

9	2003.07	論文	宮崎 邦彦 吉浦 裕 岩村 充 松本 勉 佐々木良一	第三者機関への依存度に基づく長期利用向け電子署名技術評価手法の提案	情報処理学会論文誌第44巻第8号 pp1955-1969, 2003年
10	2003.12	論文	青島 弘和 吉浦 裕 州崎 誠一 本城 信輔 豊島 久 佐々木良一	電子透かしを用いたWebサイト認定マークの実用システム開発と評価	システム制御情報学会論文誌 vol.16, No.12, pp616-627, 2003年
11	2004.08	論文	上田 祐輔 佐々木良一 吉浦 裕 洲崎 誠一 宮崎 邦彦	データ喪失を想定したヒストリシス署名方式評価手法の提案	情報処理学会論文誌第45巻第8号 pp1966-1976,
12	2005.1	論文	kunihiko Miyazaki, Mitsuru Iwamura, Tsutomu Matsumoto, Ryoichi Sasaki, Hiroshi Yoshiura, Satoru Tezuka, Hideki Imai	“Digitally Signed Document Sanitizing Scheme with Disclosure Condition Control”	IEICE Transaction on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, vol. E88-A, no. 1, pp.239-246 Jan. 2005
13	2005.08	論文	宮崎 邦彦 岩村 充 松本 勉 佐々木良一 吉浦 裕 松木 武 秦野 康生 手塚 悟 今井 秀樹	交渉ゲームにおける鍵自己暴露戦略のインパクト —電子署名技術の利用に係る新たな課題	情報処理学会論文誌第46巻第8号 pp1871-1879,
14	2005.08	論文	安 健司 赤羽 泰彦 尾崎 将巳 瀬本 浩治 佐々木良一	暗号メールにおける個人情報不正送出チェックシステムの評価	情報処理学会論文誌第46巻第8号 pp1976-1983,
15	2005.08	論文	石井 真之 鹿志村浩史 佐々木良一 吉浦 裕 越前 功 伊藤 信治	2階層電子透かしの有効性の評価	情報処理学会論文誌第46巻第8号 pp2053-2067,

16	2005.08	論文	佐々木良一 石井 真之 日高 悠 矢島 敬士 吉浦 裕 村山 優子	多重リスクコミュニケーターの開発 構想と試適用	情報処理学会論 文誌第46第8号 pp2120-2129,
17	2006.07	論文	甲斐根 功 佐々木良一 斉藤 泰一	匿名性を持つ譲渡禁止電子チケット システムの提案と評価	情報処理学会論 文誌第47第7号 pp2167-2278
18	2006.08	論文	高橋 正和 村上 純一 須藤 年章 平原 伸昭 佐々木良一	フィールド調査によるボットネット の挙動解析	情報処理学会論 文誌第47第8号 pp2512-2522
19	2006.10	論文	佐々木良一 芦野佑樹 増渕孝延	デジタル・フォレンジックの体系 化の試みと必要技術の提案	日本セキュリティ・マネジメン ト学会 20 巻第 2 号、pp49-61、 2006.9
20	2007.10	論文	谷山充洋 佐々木良一	2000年問題に対するリスクコ ミュニケーション面からの分析	日本セキュリティ・マネジメン ト学会 21 巻第 2 号
21	2007.11	論文	佐々木良一	行政と IT リスクコミュニケーシ ョン	都市問題研究、 59 巻、第 10 号、 通巻 682 号、 pp44-58
22	2007.12	論文	渡部 知浩 松本信一 山本裕志 矢島 敬 佐々木 良一	多重リスクコミュニケーターを用い たリスクコミュニケーション支援 方式	日本リスク研究 学会誌 17 (3)
23	2008.1	論文	真鍋 大和 山川 佑太 佐々木良一	携帯電話におけるバイオメトリク ス認証の安全性の評価	日本セキュリティ・マネジメン ト学会、第 21 巻 第 3 号 pp27-35
24	2008.2	論文	芦野佑樹、 佐々木良一	セキュリティデバイスとヒステリ シス署名を用いたデジタルフォレ ンジックシステムの提案と評価	情報処理学会論 文誌、2008 年 2 月号、pp. 999-1009
25	2008.2	論文	渡部 知浩、 山本 裕志、 矢島 敬士、 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターにおけ る関与者情報獲得支援方式の評価	電気学会論文誌 C 分冊
26	2008.3	論文	藤本 肇 上田 祐輔 佐々木良一	デジタル署名付文書への公開鍵暗 号危殆化対策の組合せ最適化法の 提案と一適用	情報処理学会論 文誌第 49 号第 3 号 pp1105-1118

27	2008.9	論文	佐々木良一、 日高 悠、 守谷 隆史、 谷山 充洋、 矢島 敬士、 八重樫清美、 川島 泰正、 吉浦 裕	多重リスクコミュニケーターの開発 と適用	情報処理学会論 文誌第 49 号第 9 号 pp3180-3190
28	2008.9	論文	ハン 博文、 佐々木良一	I P トレースバックのための出国 印方式の試作と評価	情報処理学会論 文誌第 49 号第 9 号 pp3157-3164
29	2008.9	論文	高塚 光幸、 多田 真崇、 佐々木良一	開示情報の墨塗りと証拠性確保を 両立させる e-Discovery システム の提案	情報処理学会論 文誌第 49 号第 9 号 pp3191-3198
30	2008.9	論文	植松 建至 芦野 佑樹 藤田 圭祐 多田 真崇 高塚 光幸 佐々木良一	構造計算書不正検知システムの提 案	情報処理学会論 文誌第 49 号第 9 号 pp3199-3208
31	2009.1	論文	小須田優介 佐々木良一	Ajax を用いた S S H クライアン トシステムの提案と実装	情報処理学会論 文誌第 50 号第 1 号 pp421-429
32	2009.3	論文	守谷 隆史 千葉 寛之 佐々木良一	内部統制のための多リスク・多関 与者を考慮した費用対効果の評価 法の提案と適用	日本セキュリティ イマネジメント 学会誌 Vol. 22, No. 3, pp 3-14
33	2009.9	論文	谷山充洋 日高悠 荒井正人 甲斐 賢 伊川宏美 矢島敬士 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの企業 向け個人情報漏洩問題への適用	日本セキュリティ イマネジメント 学会誌 VOL. 23, No. 2 pp34-51
34	2009.9	論文	谷山充洋 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの教育 方法の提案と分析	日本セキュリティ イマネジメント 学会誌 VOL. 23, No. 2、 pp52-64
35	2010.01	論文	田村 佑輔 甲斐 俊文 佐々木良一	ユーザ標的型 Web サイト改ざん に対する検索エンジンを用いた検知 手法の提案	情報処理学会論 文誌第 51 号第 1 号 pp191-198

■ 講演

No.	発表年月	区分	発表/執筆者	題名	発表先
1	2001. 4	講演	Hiroshi Yoshiura, Kunihiko Miyazaki, Shinji Itoh, Kazuo Takaragi, Ryoichi Sasaki	A Multi-OS Approach to Trusted Computer Systems	9 th International Workshop on Security Protocol
2	2001. 5	講演	佐々木良一 吉浦 裕	I T革命下の著作権と違法コピー対策に関する考察	情報処理学会 CSEC 研究会
3	2001. 4	海外講演	Ryoichi Sasaki	cIDF Watermarking Approach against Illegal Copying	The 2 nd CIDF International Symposium
4	2001. 11	招待講演	佐々木良一	ブロードバンド時代に重要となるセキュリティ技術	ネットワーク・セキュリティワークショップ in 越後湯沢
5	2001. 10	招待講演	佐々木良一	印鑑と電子印鑑の歴史と類似性の分析	CSS2001
6	2001. 10	講演	佐々木良一 吉浦 裕	ヒューマンクリプト研究の将来方向に関する考察	CSS2001
7	2002. 02	講演	佐々木良一 吉浦 裕	マークシステムと認証機関の関連に関する考察	CSEC16-15、静岡
8	2002. 03	招待講演	佐々木良一	情報セキュリティの動向	信学ワークショップ長崎
9	2002. 04	講演	Ryoichi Sasaki, Hiroshi Yoshiura, Shinji Itoh	Combinational Optimization of Countermeasures against Illegal Copying	Proceedings of the Tenth Annual Workshop on Security Protocols
10	2002	講演	Hiroshi Yoshiura, Kunihiko Miyazaki, Shinji Itoh, Kazuo Takaragi, Ryoichi Sasaki,	Legally Authorized and Unauthorized Digital Evidence	The 2002 Cambridge International Workshop on Security Protocols
11	2002. 10	講演	渡邊 浩朗 加藤 貴法 佐々木良一 江口 雄介 安永 洋平 吉田 兼也	P2P 環境下における動的グループ生成用暗号利用方式の評価	コンピュータセキュリティシンポジウム 2002

12	2002. 10	講演	鹿志村浩史 石井 真之 吉浦 裕 越前 功 中村 高雄 田平 卓之 原田 綱一 佐々木良一	2階層電子透かしの提案と評価	コンピュータセキュリティシンポジウム 2002
13	2002. 10	講演	赤羽 泰彦 安 健司 佐々木良一	チャットにおける鍵配送プロトコルの一提案	コンピュータセキュリティシンポジウム 2003
14	2003. 01	講演	森 雄司 佐々木良一	不正コピー対策の最適組み合わせに関する感度解析	SCIS2003
15	2003. 02	講演	佐々木良一 杉立 淳	情報セキュリティ教育の現状と今後	電子情報通信学会、信学技報 SITE
16	2003. 03	講演	片山 晃一 尾高 由一 中村 浩 戸辺 義人 佐々木良一	ゲートウェイ絞込み制御による不正フロー対策システム	情報処理学会、2003年春3月全国大会
17	2003. 05	講演	佐々木良一 吉浦 裕 州崎 誠一 宮崎 邦彦	デジタル署名付文書の長期的安全性に関する考察	情報処理学会研究報告 CSEC
18	2003. 06	講演	赤羽 泰彦 安健 司 佐々木良一	暗号メールにおける機密情報不正送出チェック方式の開発	情報処理学会 DICOM02003
19	2003. 06	講演	大桃 慎司 甲斐根 功 佐々木良一	電子証明システムにおけるクロスサイトスクリプティング脆弱性対策の検討	情報処理学会 DICOM02003
20	2003. 07	講演	宮崎 邦彦 州崎 誠一 岩村 充 松本 勉 佐々木良一 吉浦 裕	電子文書墨塗り問題	電子情報通信学会、信学技報 ISEC
21	2003. 07	講演	篠田 光秋 上田 祐輔 佐々木良一	紙文書を伴うヒストリシス署名システムの提案と評価	電子情報通信学会、信学技報 ISEC
22	2003. 07	講演	石井 真之 鹿志村浩史 佐々木良一 吉浦 裕 越前 功 伊藤 信治	2階層電子透かし方式の有効性の解析	電子情報通信学会、信学技報 ISEC

23	2003. 09	講演	甲斐根 功 大桃 慎司 佐々木良一	電子証明システムにおけるクロス サイトスクリプティング脆弱性対 策の検討	FIT2003
24	2003. 10	講演	佐々木良一	セキュリティと個人情報保護の関 係に関する考察	電子情報通信学 会, 信学技報 SITE
25	2003. 10	講演	小室 孝雄 水野 聡美 中村 英徳 佐々木良一	パスワード型および画像選択型個 人認証方式の評価	電子情報通信学 会, 信学技報 SITE
26	2003. 10	講演	佐々木良一 板津 守昭	情報セキュリティ教育の現状と将 来に関する考察	コンピュータセ キュリティシン ポジウム CSS
27	2003. 10	講演	安 健司 赤羽 泰彦 佐々木良一	個人情報不正送付チェック機能を 持つ暗号メールの構想と基本部の 開発	コンピュータセ キュリティシン ポジウム CSS2003
28	2003. 10	講演	菊池 浩明 佐々木良一	SEC2003 参加報告	コンピュータセ キュリティシン ポジウム CSS2003
29	2004. 01	講演	上田 祐輔 佐々木良一 吉浦 裕 州崎 誠一 宮崎 邦彦	データ喪失を想定したヒストリシ ス署名方式評価手法の提案	電子情報通信学 会 SCIS2004
30	2004. 01	講演	佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの開発 構想	電子情報通信学 会 SCIS2004
31	2004. 01	講演	佐々木良一 上田 祐輔	デジタル署名付文書の長期的利用 を可能にする方式の提案	電子情報通信学 会, 信学技報 SITE
32	2004. 01	講演	宮崎 邦彦 岩村 充 松本 勉 佐々木良一 吉浦 裕 手塚 悟 今井 秀樹	開示条件を制御可能な電子文書墨 塗り技術	電子情報通信学 会 SCIS2004
33	2004. 01	講演	Shinji Yamanaka, Kazukuni Kobara Ryoichi Sasaki, Hideki Imai	Valkyrie:An Anonymous Communication Infrastructure for Unstable Network	電子情報通信学 会 SCIS2004
34	2004. 05	講演	竹内 啓 西本 賢城 佐々木良一	ディスプレイからの視覚的情報漏洩 防止システムの開発	情報処理学会研 究報告 CSEC

35	2004. 05	講演	関 聡司 佐々木良一 岩村 充	コンピュータ・ウイルス対策における疫学的アプローチに関する研究(その1)～ウイルス拡散・制御シミュレータの開発～	情報処理学会研究報告 CSEC
36	2004. 05	講演	佐々木良一 清水 大介 石井 真之	コンピュータウイルスに対する分析疫学的アプローチ	電子情報通信学会 信学技報 ISEC
37	2004. 05	講演	佐々木良一	E-ビジネスを支えるセキュリティ技術の動向	電子情報通信学会 信学技報 ISEC
38	2004. 07	講演	本杉 洋 桂川 健一 佐々木良一	カメラ付携帯電話を利用した電子投票システムの提案	電子情報通信学会 信学技報 ISEC
39	2004. 09	講演	Ryoichi Sasaki,	Plan for Developing and Applying “Multi-Risk Communicator (MRC)” –Support Tool for Risk Communication under Multiple Risk Environment-	U. S. –Japan Experts Workshop on CIIP
40	2004. 10	講演	Yusuke Ueda, Ryoichi Sasaki, Hiroshi yoshiura, Seichi Susaki, Kunihiko miyazaki,	Evaluation of Total Cost in Hysteresis Signature Systems	IWAP2004 (in Fukuoka) Proceeding pp60-71
41	2004. 10	講演	宇根 正志 田村 裕子 岩下 直行 松本 勉 松浦 幹太 佐々木良一	公開鍵証明書・失効情報欠損時における ETSI TS 101 733 に基づく署名の検証可能性	CSS2004 pp439-444
42	2004. 10	講演	宇根 正志 田村 裕子 岩下 直行 松本 勉 松浦 幹太 佐々木良一	CA 鍵漏洩時における ETSI TS 101 733 に基づく署名の検証可能性	CSS2004 pp445-456
43	2004. 10	講演	宮崎 邦彦 岩村 充 松本 勉 佐々木良一 吉浦 裕 松木 武 秦野 康生	交渉ゲームにおける鍵自己暴露戦略のインパクト～電子署名技術の利用に係る新たな課題～	CSS2004 pp511-516
44	2004. 10	講演	大桃 慎司 佐々木良一 須藤 正之 保田 浩之	ユーザビリティを考慮したリモートセキュアプリントシステムの提案	CSS2004 pp157-162

45	2004. 10	講演	片山 晃一 中村 匠雄 熱海 寛人 戸辺 義人 佐々木良一	DDoS 攻撃耐性を持つシステムの開発と定量的評価	CSS2004 pp355-360
46	2004. 10	講演	甲斐根 功 佐々木良一 斉藤 泰一	匿名性を持つ譲渡禁止電子チケットシステムの提案	CSS2004 pp331-336
47	2004. 10	講演	高橋 正和 佐々木良一	ワームの特性に基づく拡散モデルの提案と適用	CSS2004 pp493-498
48	2004. 10	講演	安 健司 赤羽 泰彦 尾崎 将巳 瀬本 浩治 佐々木良一	暗号メールにおける個人情報不正送出チェックシステムの評価	CSS2004 pp1-6
49	2004. 10	講演	佐々木良一	東京電機大学における情報セキュリティ教育	電子情報通信学会、信学技報 SITE
50	2005. 01	講演	佐々木良一 関 聡司 高橋 正和 本杉 洋	コンピュータ・ウイルス対策における疫学的アプローチに関する研究(その2)―マスメール型ウイルス対策モデルへの適用―	電子情報通信学会 SCIS2005
51	2005. 01	講演	藤本 肇 上田 祐輔 佐々木良一	公開鍵暗号危殆化時のデジタル署名付文書への影響分析	電子情報通信学会 SCIS2005
52	2005. 01	講演	石井 真之 日高 悠 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの開発構想と試適用(その1)	電子情報通信学会 SCIS2005
53	2005. 01	講演	竹内 啓 佐々木良一	ディスプレイからの視覚的情報漏洩防止システムの開発と評価	電子情報通信学会 SCIS2005
54	2005. 06	講演	Ryoichi Sasaki	Trial Development of "Multi-Risk Communication(MRC) and its Application Decision Making Process	2 nd U. S. -Japan Expert Workshop on Critical Information Infrastructure Protection (CIIP)
55	2005. 07	講演	関 聡司 佐々木良一 岩村 充 石井 真之	コンピュータ・ウイルスに対する疫学的アプローチの提案	情報処理学会研究報告 CSEC
56	2005. 07	講演	安 健司 赤羽 泰彦 尾崎 将巳 瀬本 浩治 佐々木良一	暗号メールにおける個人情報不正送出チェック機能の拡張と評価	情報処理学会研究報告 CSEC

57	2005.07	講演	増渕 孝延 中村 創 石井 真之 小川 典子 鹿志村浩史 佐々木良一	内部不正者を考慮した墨塗り箇所変更可能方式の提案	情報処理学会研究報告 CSEC
58	2005.07	講演	芦野 佑樹 粉川 寛人 佐藤 吏 佐々木良一	USBデバイスを用いたデジタルフォレンジック保全方式の提案と評価	情報処理学会研究報告 CSEC
59	2005.07	講演	Hiroshi Yajima, Tomohiro Watanabe, Ryoichi Sasaki	Support System for Decision Maker in Multiple Risk Communicator	CHI2005
60	2005.09	特別講義	佐々木良一	情報セキュリティ	東大先端研安全・安心オープンスクール 2005年9月7日
61	2005.09	特別講義	佐々木良一	IT社会のリスクと安全性 — ウイルスから暗号まで —	東大先端研連続セミナー「リスク社会と報道」
62	2005.10	講演	Ryoichi Sasaki, Saneyuki Ishii, Yuu Hidaka, Hiroshi Yajima, Hiroshi Yoshiura, Yuuko Murayama	Development Concept for and Trial Application of a “ Multiple Risk Communicator”	5 th IFIP Conference e-Commerce, e-Business, and e-Government (I3E 2005) “Challenges of Expanding e-Commerce, e-Business, and e-Government” Springer pp607-621
63	2005.10	講演	Kenji Yasu, Yasuhiko Akahane, Masashi Ozaki, Koji Semoto, Ryoichi Sasaki	Development and Evaluation of a System for Checking for Improper Sending of Personal Information in Encrypted E-mail	5 th IFIP Conference e-Commerce, e-Business, and e-Government (I3E 2005) “Challenges of Expanding e-Commerce, e-Business, and e-Government” Springer pp203-217
64	2005.10	講演	藤本肇、 上田祐輔、 佐々木良一	公開鍵暗号危殆化のデジタル署名付文書への影響分析(その2)	CSS2005 pp61-66
65	2005.10	講演	桂川健一、 本杉洋、 佐々木良一	カメラ付き携帯電話を利用した電子投票システムの実装と評価	CSS2005 pp511-516
66	2005.10	講演	渡部知浩、 矢島敬士、	多重リスクコミュニケーターにおける関与者情報獲得支援方式	CSS2005 Pp645-654

			佐々木良一		
67	2005. 10	特別講演	佐々木良一	暗号危殆化のPKIシステムに及ぼす影響とその対策	ネット・ワークセキュリティワークショップ in 越後湯沢2005
68	2005. 11	招待講演	佐々木良一 矢島敬士	「多重リスクコミュニケーター」の開発と今後の展開	マルチメディア通信と分散処理／電子化知的財産・社会基盤研究会合同研究報告
69	2005. 12	講演	高橋 正和 佐々木良一	ウイルス感染ノードを用いた分散システムとしてのボットネットの分析	第2回情報セキュリティ学際シンポジウム
70	2006. 01	講演	佐々木良一 芦野 佑樹 増渕 孝延	デジタル・フォレンジックの体系化の試みと必要技術の提案	電子情報通信学会 SCIS2006
71	2006. 01	講演	増渕 孝延 高塚 光幸 芦野 佑樹 入澤麻里子 宮寄 邦彦 佐々木良一	デジタル・フォレンジックのための安全で効率的なE-Discovery技術の提案	電子情報通信学会 SCIS2006
72	2006. 01	講演	日高 悠 藤本 肇 矢島 敬士 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの個人情報漏洩問題への適用性の評価	電子情報通信学会 SCIS2006
73	2006. 01	講演	竹内 啓 島崎 充弘 佐々木良一	高齢化に伴うアクセス権限遷移方式の提案	電子情報通信学会 SCIS2006
74	2006. 01	講演	大井 明子 吉武 静雄 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターのプロトタイプシステムの設計と実装	電子情報通信学会 SCIS2006
75	2006. 01	講演	松本 信一 矢島 敬士 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターにおける円滑なリスクコミュニケーション支援方法の提案	電子情報通信学会 SCIS2006
76	2006. 01	講演	本杉 洋 関 聡司 高橋 正和 岩村 充 佐々木良一	マスメール型ウイルスに対する実験疫学を含む総合的アプローチ	電子情報通信学会 SCIS2006
77	2006. 02	講演	Ryoichi Sasaki, Yuki Ashino, Hirohito Kokawa, Tsukasa Sato	Proposal and Evaluation of Digital Forensic Logging System Using a USB Device and a Hysteresis Signature	International Conference of Digital Forensics2006
78	2006. 03	講演	佐々木良一 松田 剛	産学協同によるセキュリティ教育の実績と課題	情報処理学会 DPS/CSEC 共同研

			伊東 栄二		研究会
79	2006. 07	講演	佐々木良一	コンピュータウイルスに対する疫学的アプローチの提案と評価	ISEC/CSEC
80	2006. 07	講演	関山 智也 小林 義徳 高橋 正和 佐々木良一	BOTNET からのスパムメールに対する応答遅延方式の提案	ISEC/CSEC
81	2006. 07	講演	多田 正崇 高塚 光幸 増渕 孝延 佐々木良一	告発文書から告発者の発覚を防ぐ公益通報者保護技術の提案	ISEC/CSEC
82	2006. 07	講演	佐藤さつき 芦野 佑樹 上原哲太郎 佐々木良一	ネットオークションに出品したPCでの一タ消去状況の調査・分析	ISEC/CSEC
83	2006. 10	講演	芦野 佑樹 佐々木良一	セキュリティデバイスとヒストリシス署名を用いたデジタルフォレンジックシステムの提案と再評価	CSS2006
84	2006. 10	講演	岡田 祐司 吉浦 裕 佐々木良一 矢島 敬士 村山 優子	不正者のモデルを用いた多重リスクコミュニケーターの拡張	CSS2006
85	2006. 10	講演	守谷 隆史 佐々木良一	リスク対策の最適組み合わせを求めるのに適したFTA法の提案	CSS2006
86	2006. 10	講演	藩 博文 佐々木良一	IPトレースバックのための出国印方式の提案	CSS2006
87	2006. 10	講演	藤本 肇 上田 祐輔 佐々木良一	公開鍵暗号危殆化のデジタル署名付き文書への影響分析と対策案の提案(その① 方式の提案)	CSS2006
88	2006. 10	講演	入澤麻里子 芦野 佑樹 佐々木良一	カメラを利用した操作記録正当性証明システムの提案	CSS2006
89	2006. 9	講演	Hiroshi Yajima Shinichi Matsumoto Ryoichi sasaki	Proposal of risk communication supporting method in multiplex risk communicatror	11 TH ETFA 11th IEEE International Conference on Emerging Technologies and Factory Automation pp255-pp260
90	2006. 10	講演	Satoshi Seki, Ryoichi Sasaki, Mitsuru Iwamura, Hiroshi Motosugi	Epidemiologic Approach against Computer Viruses - Application of a model of measures against mass - mail viruses	IWSEC2006 (1 st International Workshop on Security) Short Papers PP37-44 October 23-24 2006

91	2006. 12	講演	Takanobu Masubuchi, Mitsuyuki Takatsuka, Ryoichi Sasaki,	A Digital Document Flexible Snitizing Schheme	IEEE International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing 2006
92	2006. 11	招待講演	佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの開発と試適用	電子情報通信学会 SITE 研究会 2006. 11 pp1-6
93	2006. 11	講演	谷山充洋、佐々木良一	2000 年問題のリスクコミュニケーション面からの分析	電子情報通信学会 SITE 研究会 2006. 11 pp7-12
94	2006. 11	講演	渡部知浩、矢島敬士、佐々木良一	多重リスクコミュニケーターにおける関与者情報獲得支援方式	電子情報通信学会 SITE 研究会 2006. 11 pp13-18
95	2006 年 8 月 23 日	講演	佐々木良一	デジタル・フォレンジック	中央大学人材育成拠点公開講座
96	2007. 1	講演	秦野康生、宮崎邦彦、岩村充、松本勉、佐々木良一、吉浦裕、本多義則	ログ管理不正のログインフレーションによる抑止	電子情報通信学会 SCIS
97	2007. 3. 1	講演	高塚光幸、向井剛平、多田真宗、佐々木良一	開示情報の正当性を保障する E-Discovery システムの提案	DCP/CSEC 合同研究会
98	2007. 4	講演	佐々木良一	デジタルフォレンジックのここがポイント～間違ったデジタルフォレンジックを行わないために	RSACONFERENCE2007
99	2007. 6	講演	谷山充洋、佐々木良一	2000 年問題に対するのリスクコミュニケーション面からの分析	J S S M 第 21 回全国大会
100	2007. 6	講演	佐々木良一	内部統制と情報セキュリティ	システム監査学会 2007 年度第 2 回定例研究会
101	2007. 6	講演	佐々木良一	PKI 技術と私	日本ネットワークセキュリティ協会 PKI day2007
102	2007. 7	講演	真鍋大和、山川裕太、佐々木良一	携帯電話におけるバイオメトリクス認証の安全性	DICOM02007 (in 鳥羽)
103	2007. 7	講演	多田真宗、芦野佑樹、安健司、佐々木良一、側高孝	電子文書の内容から通報者発覚の防止が可能な匿名内部告発システムの提案と試作	DICOM02007 (in 鳥羽)

			治、松田誠一、土井洋、岡本栄司		
104	2007.7	講演	Hiroshi Yajima Tomohiro Watanabe Ryoichi sasaki	Evaluation of the Participant-Support Method for Information Acquisition in the “Multiplex Risk Communicator”	12th International Conference on Human-Computer Interaction pp195-pp203
105	2007.9	講演	Hiroshi Yajima Tomohiro Watanabe Ryoichi sasaki	Supportn System for Decision Maker in Multiplex Risk Communicator	12 th ETFA 12th IEEE International Conference on Emerging Technologies and Factory Automation pp255-pp260
106	2007.9	講演・パネル	佐々木良一	デジタル・フォレンジックの基礎と最近の動向	情報処理学会連続セミナー2007「情報セキュリティ2.0 自由と統制の時代のセキュリティ」
107	2007.10	講演	Masataka Tada, Mitsuyuki Takatsuka, Takanobu Masubuchi, Ryouichi Sasaki	Proposal of a Whistleblower Protection System to Prevent the Exposure of an Accuser from Signing an Indictment Document	7 th IFIP Conference e-Commerce, e-Business, and e-Government (I3E 2007 inChina)
108	2007.10	講演	佐々木良一 日高悠 守谷隆史 谷山充洋 矢島敬士 八重樫清美 川島泰正 吉浦裕	多重リスクコミュニケーターの開発と適用	CSS2007 (奈良)
109	2007.10	講演	藩 博文 佐々木良一	IPトレースバックのための出国印方式の試作と評価	CSS2007 (奈良)
110	2007.10	講演	安 健司 佐々木良一	暗号化メールに対する個人情報不正送出チェックシステムの対策案最適組み合わせ方式の提案と適用	CSS2007 (奈良)
111	2007.10	講演	高塚光幸 多田真崇 佐々木良一	開示情報の墨塗りと証拠性確保を両立する e-Discovery システムの提案	CSS2007 (奈良)

112	2007.10	講演	守谷隆史 千葉寛之 佐々木良一	多リスク・多関与を考慮した内部統制構築法の提案と一適用	CSS2007 (奈良)
113	2007.10	講演	植松建至 芦野佑樹 藤田圭祐 多田真崇 高塚光幸 佐々木良一	構造計算データ不正改竄検知システムの提案	CSS2007 (奈良)
114	2007.10	講演	谷山充洋 日高悠 荒井正人 甲斐賢 伊川宏美 矢島敬士 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの企業向け個人情報漏洩問題への適用	CSS2007 (奈良)
115	2007.10	講演	藤田圭祐 芦野佑樹 上原哲太郎 佐々木良一	不正プログラムの起動制御機能を持つDFシステムの提案	CSS2007 (奈良)
116	2007.10	講演	文倉斉 佐々木良一	個人情報漏洩に対する疫学面からの分析	CSS2007 (奈良)
117	2007.11	講演	Yuki Ashino, Ryoichi Sasaki	Proposal of Digital Forensic System Using Security Device and Hysteresis Signature	IIHM2007 in Taiwan (The Third International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing)
118	2007.11	講演	Mariko Irisawa, Yuki Ashino, Keisuke Fujita, Ryoichi Sasaki	Development and Application of Digital Forensic Logging System for Data from a Keyboard and Camera	IIHM2007 in Taiwan (The Third International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing)
119	2007.11	講演	佐々木良一	法規制と情報セキュリティのあり方ー技術者の立場からー (現在・過去・未来)	日本セキュリティ・マネジメント学会学術講演会
120	2007.12	講演	Mitsuyuki Takatsuka, Masataka Tada, Ryoichi Sasaki	Proposal of the e-Discovery System for Sanitizing Disclosure Information and for Securing Evidence	F2GC2007 in Korea) The 2007 International Workshop on Forensics for Future Generation Communication Environment

121	2008. 1	講演	Keisuke Fujita, Yuki Ashino, Tetsuro Uehara, Ryoichi Sasaki	Proposal of Digital Forensic System with a Boot Control Function against Unauthorized Programs	ICDF2008(in Kyoto) 4th Annual IFIP WG11.9 International Conference on Digital Forensics
122	2008. 1	講演	Yasuo Hatano, Kunihiko Miyazaki, Mitsuru Iwamura, Tsutomu Matsumoto, Ryoichi Sasaki, Hiroshi Yoshiura, Yoshinori Honda	Novel Criterion Based on Log Inflation for Fraudulent Audit Log Preservation	ICDF2008(in Kyoto) 4th Annual IFIP WG11.9 International Conference on Digital Forensics
123	2008. 1	講演	小林義徳 佐々木良一	数量化理論を用いたフィッシング対 策の研究	SCIS2008
124	2008. 1	講演	臼井佑真 間形文彦 勅使河原可海 佐々木良一 西垣正勝	事象分割型FTAを用いたセキュリテ ィ対策評価モデルの提案	SCIS2008
125	2008. 1	招待 講演	佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの開発と適 用	JST「情報と社会」研 究開発領域 社会技術シンポジウ ム「高度情報社会の 脆弱性の解明と解 決」
126	2008. 3	講演	小須田優介 佐々木良一	Ajax を用いたSSHクライアントシステ ムの提案と実装	CSEC2008
127	2008. 5	講演	Mitsuhiro Taniyama, Ryouichi Sasaki	Analysis of the Y2K problem from the viewpoint of risk communication	Sixth International Conference on RISK ANALYSIS 2008 (in Greece)
128	2008. 5	講演	Ryoichi Sasaki, Yuu Hidaka, Takasi Moriya, Mmituhiro Taniyama, Hiroshi Yajima, Kiyomi Yaegashi, Yasumasa Kawashima, Hiroshi Yoshiura	Development and applications of a multiple risk communicator	Sixth International Conference on RISK ANALYSIS 2008(in Greece)

129	2008. 6	講演	佐々木良一	情報セキュリティの最近の動向 —ASP・SaaSを中心に—	関東テレコムサービス協会
130	2008. 6	講演	佐々木良一	IT リスク学へのアプローチ —情報セキュリティを超えて—	日本セキュリティマネジメント学会 第一回 IT リスク学研究会
131	2008. 7	講演	芦野佑樹 藤田圭祐 入澤麻里子 佐々木良一	デジタルデータ証拠保全プラットフォーム『Dig-Force シリーズ』の開発と評価	情報処理学会 DICOM02008
132	2008. 7	講演	鈴木大輔 芦野祐樹 佐々木良一	API フックを用いた個人情報漏洩対策システムの提案と多重リスクコミュニケーターによる評価	情報処理学会 DICOM02008
133	2008. 8	講演	Kenshi Uematsu, Ryoichi Sasaki	A proposal of Falsification Detection System in Structural Design	The Fourth International conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (in China)
134	2008. 10	講演	竹下教明、 近藤朗、 小林偉昭、 佐々木良一	サイバーセキュリティのためのゲーム的体験型学習システムの提案と評価	CSS2008 (沖縄)
135	2008. 10	講演	吉岡甲将、 吉田達央、 芦野佑樹、 上原哲太郎、 佐々木良一	大容量記憶装置の高速抹消方式の提案と評価	CSS2008 (沖縄)
136	2008. 10	講演	西本敬志、 佐々木良一	暗号危殆化に対する長期署名フォーマットの安全性評価	CSS2008 (沖縄)
137	2008. 10	講演	臼井佑真、 間形文彦、 勅使河原可海、 佐々木良一、 西垣正勝	事前・事後対策の併用を考慮した2フェーズ型セキュリティ対策選定方式の提案	CSS2008 (沖縄)
138	2008. 10	講演	三原 元 名雲孝昭 芦野佑樹 上原哲太郎 佐々木良一	ボットネットの多段追跡システムの構想と CCC DATASET2008 の利用手法	CSS/MWS2008 (沖縄)

139	2008. 11	講演	Mitsuhiro Taniyama, Yuu Hidaka, Masato Arai, Satoshi Kai, Hiromi Igawa, Hiroshi Yajima Ryoichi Sasaki	Application of “Multiple Risk Communicator” to Personal Information Leakage Problem	SSCS2008 (The Fifth International Conference on Security and Safety of Complex Systems)
140	2008. 11	講演	佐々木良一	Approach to IT risks -Considering Privacy and Security-	First International Privacy and Security Conference
141	2008. 12	基調講演	佐々木良一	デジタル・フォレンジックスとITリスク学	デジタル・フォレンジックス・コミュニティ in Tokyo
142	2009. 1	講演	Yuki Ashino, Keisuke Fujita, Maiko Furusawa, Tetsuro Uehara, Ryoichi Sasaki	Extension and Evaluation of Boot Control for a Digital Forensic System	ICDF2009 (in Florida) 5th Annual IFIP WG11.9 International Conference on Digital Forensics
143	2009. 1	特別講演	佐々木良一	電子文書の証拠性	山口大学
144	2009. 2. 23	講演	佐々木良一	ITリスク学と多重リスクコミュニケーター(MRC)	JSSM個人情報保護研究会
145	2009. 2. 28	講演	佐々木良一	ITリスク学確立に向けて	第3回JSSMセキュリティ公開討論会
146	2009. 3	講演	田村 佑輔 甲斐 俊文 佐々木 良一	ユーザ標的型 Web サイト改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案	CSEC2008
147	2009. 3	講演	芦野 佑樹 間形 文彦 西垣 正勝 勅使河原可海 佐々木良一	デジタルフォレンジックス対策の組み合わせに関する合意形成のための多重リスクコミュニケーターの適用	電子情報通信学会 2009総合大会シンポジウム
148	2009. 3	講演	臼井 佑真 山本 匠 間形 文彦 勅使河原可海 佐々木良一	訴訟リスクを考慮した情報セキュリティ対策選定方式の提案	電子情報通信学会 2009総合大会シンポジウム

			西垣 正勝		
149	2009. 3	講演	川西 英明 加藤 弘一 間形 文彦 西垣 正勝 佐々木良一 勅使河原可海	デジタル証拠の法的証明力を高める要件の評価手法に関する検討	電子情報通信学会 2009総合大会シンポジウム
150	2009. 5	講演	杉本尚子、 佐々木良一、 矢島敬士、 川島泰正、 八重樫清美	多重リスクコミュニケーションプログラムの開発と今後の方向	CSEC/ITリスク学 合同研究会
151	2009. 5	講演	佐々木良一	ITリスク学の必要性と日本セキュリティ・マネジメント学会ITリスク学研究会の活動	CSEC/ITリスク学 合同研究会
152	2009. 5. 22	講演	佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの開発とITリスク学	OR 学会安全安心研究部会
153	2009. 6. 5	基調講演	佐々木良一	マルウェアに対する研究者たちのチャレンジ	第 13 回サイバー犯罪に関する白浜シンポ2009
154	2009. 7.	会長講演	佐々木良一	日本セキュリティ・マネジメント学会 (JSSM) のビジョンの再考	第 23 回 JSSM 全国大会
155	2009. 7	講演	濱口昌宏、 加藤弘一、 間形文彦、 西垣正勝、 佐々木良一、 勅使河原可海	訴訟対応のためのログの組合せに関する検討	DICOMO2009
156	2009. 7	講演	古澤麻衣子、 鈴木大輔、 芦野佑樹、 佐々木良一	APIHook を用いたUSBメモリから個人情報漏洩対策システムの開発	DICOMO2009
157	2009. 7	講演	村上真教、 甲斐俊文、 入江博、 佐々木良一	IP トレースバックにおける出国印方式の拡張と評価	DICOMO2009
158	2009. 7	講演	西本敬志、 佐々木良一	暗号危殆化に対する長期署名フォーマットの安全性評価	JSSM第 23 回全国大会
159	2009. 7	講演	柿沼祐吾、 谷山充洋、 杉本尚子、 矢島敬士、 佐々木良一	多重リスクコミュニケーターの青少年ネット規制法に関わる問題への適用	JSSM第 23 回全国大会
160	2009. 8	講演	Koushou Yoshioka, Tatsuo Yoshida, Ryoichi	Proposal and evaluation of a high-speed data erasure method for mass storage devices	JWIS: Joint Workshop on Information Security2009 (in Taiwan)

			Sasaki		
161	2009. 9	講演	Yusuke Kosuda, Ryoichi Sasaki	Proposal and Implementation of SSH Client System Using Ajax	I3E2009(in France)
162	2009. 9	講演	Hirokazu Maeda, Yuta Yamakawa, Tomohiro Sasamoto, Ryouichi Sasaki	Security Evaluation of Biometrics Authentication for Cellular Phones	IHMSP2009 The Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (in kyoto)
163	2009. 9	講演	佐々木良一	文献に見るリスクと人間	JSSM第3回ITリス ク学研究会
164	2009. 9	講演	佐々木良一	ITリスクの考え方ー対立するリスクに どのように対応するかー	Hitachi Systems Prowise Business Forum in Tokyo38
165	2009. 10	講演	川上昌俊、 安田浩、 佐々木良一	情報セキュリティ教育のための e ラー ニング教材作成システムELSECの 開発	CSS2009(富山)
166	2009. 10	講演	川上昌俊、 佐々木良一	情報セキュリティ教育のための e ラー ニング教材作成システムELSECの フィッシング対策教育への適用	CSS2009(富山)
166	2009. 10	講演	濱口昌宏、 加藤弘一、 間形文彦、 西垣正勝、 佐々木良一、 勅使河原可海	訴訟対応のためのログの組合せと安 定性対策の選定手法に関する検討	CSS2009(富山)
167	2009. 10	講演	田中達哉、 田村佑輔、 甲斐俊文、 佐々木良一	改ざんサイト自動検知 DICE(Detection of Injected Site using Cyber search Engine)の開発	CSS2009(富山)
168	2009. 10	講演	山中徹哉、 芦野佑樹、 上原哲太郎、 吉浦裕、 佐々木良一	ネットワークから切り離されるPC群に 対しても集中的証拠性保全が可能な システムの提案	CSS2009(富山)
169	2009. 10	講演	桜井裕唯、 芦野佑樹、 上原哲太郎、 吉浦裕、 佐々木良一	大容量耐タンパ HiGATE の試作と e-Discovery への適用	CSS2009(富山)
170	2009. 10	講演	竹下数明、 小林偉昭、 佐々木良一	脆弱性対策教育のための e ラーニン グシステムの開発と評価	CSS2009(富山)
171	2009. 10	講	臼井佑真、	訴訟リスクを考慮した情報セキュリテ	CSS2009(富山)

		演	山本匠、 間形文彦、 勅使河原可海、 佐々木良一、 西垣正勝	ィ対策選定方式に関する検討	
172	2009. 10	講演	三原元、佐々 木良一	数理化理論と CCCDATAset2009 を 利用したボットネットのサーバ特定手 法の提案と評価	MWS2009(富山)
173	2009. 10	特別 講義	佐々木良一	情報セキュリティからITリスクへ	情報セキュリティ 大学院大学
174	2009. 12	講演	中島 大輔 鮫島 正樹 秋吉 政徳 佐々木良一	不確定なパラメータのもとでのリスク 対策組合せ合意支援システム	電気学会第40回情 報システム研究会
175	2009. 12	講演	Maiko Furusawa, Daisuke Suzuki, Yuuki Ashino, Ryoichi Sasaki	Development of a system using the APIHook function to protect personal information leakage from USB memory	IWISA2009 in Korea (International Workshop on Information Security and Assurances).
176	2009. 12	講演	Masanori Murakami, Toshifumi Kai, Hiroshi Irie, Ryoichi Sasaki	Extention and Evaluation of IP Traceback Method Using Departure Stamp in Edge Router	F2GC2009in Korea (Forensics for Future Generation Communication environment)
177	2010. 01	講演	佐々木良一	クラウドとITリスク	第 4 回 IT リスク学研 究会
178	2010. 01	講演	Masatoshi Kawakami, Hiroshi Yasuda, Ryoichi Sasaki	Development of an E-Learning Content-Making System for Information Security (ELSEC) and Its Application to Anti-Phishing Education	2010 International Conference on e-Business, e-Management and e-Learning
179	2010. 02	特別 講演	佐々木良一	クラウドコンピューティングのセキュリ ティ	日本システム監査人 協会
180	2010. 03	講演	佐々木良一	クラウドと IT リスクに関する考察	情報処理学会第48 回CSEC2009
181	2010. 03	講演	佐久間貴士 佐々木良一	プライバシー保護のための墨塗り機 能を持つ電子証明書システムの提案 と評価	情報処理学会第48 回CSEC2009

■ 解 説

No.	発 表 年 月	区分	発表/執筆 者	題 名	発 表 先
1	2001. 4	解説	佐々木良一	インターネット社会の電子印鑑	画像電子学会誌、Vol. 30, No. 2, pp161-166
2	2001. 12	解説	佐々木良一 宝木 和夫	印鑑と電子印鑑の歴史と類似性の分析」(前編) -その歴史、登録、証明-	CSM2001年12月号
3	2001	解説	佐々木良一	セキュリティ研究とビジネス展開	日立返人会、研究の年輪
4	2002. 01	解説	佐々木良一 宝木 和夫	「印鑑と電子印鑑の歴史と類似性の分析」(後編) -紙とデジタルの世界を比較する-	CSM2001年12月号
5	2002. 04	解説	佐々木良一	情報セキュリティ教育を俯瞰する	CSM2002年4月号
6	2002. 09	解説	佐々木良一	電子政府の暗号技術に対する要求条件	CSM2002年9月号
7	2002. 10	解説	佐々木良一	電子認証 現在・過去・未来	日経産業新聞 10月17日
8	2003. 03	解説	茂垣 武文 佐々木良一	広域網回線サービス選択のポイント	CSM2003年3月号
9	2003. 05	解説	佐々木良一	3~5年後に革新的ソフトを実用化させる次世代ソフトウェア開発	セキュリティ分野) 執筆分担、 経済産業新聞、 2003年5月15日
10	2003. 05	解説	佐々木良一	セキュリティと両立・対立する個人情報保護	Cyber Security Mnagement
11	2003. 05	解説	佐々木良一	個人情報保護とセキュリティ	警察庁@police 「セキュリティ 解説」
12	2003. 07	解説	佐々木良一	電子透かしとステガノグラフィ	警察庁@police 「セキュリティ 解説」
13	2003. 07	解説	佐々木良一	SEC2003に参加して(情報セキュリティの国際動向)	Cyber Security Mnagement
14	2003. 08	解説	佐々木良一	PKI Lovers	JNSA Press Vol. 8
15	2003. 09	解説	佐々木良一	コンピュータ・フォレンジックス	警察庁@police 「セキュリティ 解説」

16	2004. 01	解説	佐々木良一	印鑑登録証明と公的個人認証	警察庁@police「セキュリティ解説
17	2004. 03	解説	佐々木良一	リスクコミュニケーション	警察庁@police「セキュリティ解説
18		解説	佐々木良一	ユビキタス時代のセキュリティ	日立 I N S
19	2004. 05	解説	佐々木良一	暗号プロトコル	警察庁@police「セキュリティ解説
20	2004. 07	解説	佐々木良一 宇都孝久	「大学院情報セキュリティ講座—東京電機大学の場合一	Cyber Management Security Vol. 5 No. 57
21	2004. 07	解説	佐々木良一	コンピュータウイルスと疫学	警察庁@police「セキュリティ解説
22	2004. 09	解説	佐々木良一	デジタル・フォレンジック	警察庁@police「セキュリティ解説
23	2004. 11	解説	笠原 正雄 佐々木良一	著作権・個人情報保護と暗号技術	情報処理 vol. 45, No. 11 pp1153-1156
24	2004. 11	解説 (講演)	佐々木良一	セキュリティ教育の現状と今後	JECC NEWS
25	2005. 01	解説	佐々木良一	サイバーテロとC I I P	警察庁@police「セキュリティ解説
26	2005. 02	解説	佐々木良一	インシデント・レスポンスのための組織	警察庁@police「セキュリティ解説
27	2005. 06	解説	佐々木良一	コンピュータウイルスへ疫学的にアプローチする	Cyber Security Mnagement
28	2005. 06	解説	佐々木良一	脆弱性問題を解決するための多重リスクコミュニケーター	情報処理 vol. 46, No. 6 pp672-676
29	2005. 08	解説	佐々木良一	セキュリティに関する国際学会 SEC2005 が日本で開催	Cyber Security Mnagement
30	2005. 09	解説	佐々木良一	前編「“多重リスクコミュニケーター”の開発の背景とその構想」	Cyber Security Mnagement 2005年9月号
31	2005. 10	解説	佐々木良一	後編「多重リスクコミュニケーターの適用手順と適用計画」	Cyber Security Mnagement 2005年10月号
32	2005. 12	解説	佐々木良一	情報セキュリティの最近の動向	みやぎ政策の風 2006年3月 vol. 5
33	2006. 02	解説	佐々木良一	江戸時代のファイアウォール	月刊 LASDECH18. 2月巻頭言
34	2007. 2	解説	吉浦裕、	通信・配信技術とビジネ	電子情報通信学会

			佐々木良一	スモデルーP2P 技術を例としてー	Vol. 90. No. 2, pp95-100
35	2007. 6	解説	佐々木良一	顧客情報管理とコンプライアンス	金融コンプライアンス 2007年6月号
36	2007. 8	解説	佐々木良一	情報セキュリティとIT リスクコミュニケーション	IT Compliance ReviewVol.4 Autumn
37	2008. 4	解説	佐々木良一	合意形成支援ツール「多重リスクコミュニケーター(MRC)」の開発	JST News 4月号 Topics
38	2008. 8	解説	佐々木良一	デジタルフォレンジックの最新動向	電子情報通信学会 8月号
39	2008. 12	解説	佐々木良一	東京電機大学と日立システムアンドサービスの共同研究	ZDNet Japan
40	2009. 2	解説	佐々木良一	デジタル署名とのかかわり	ECOM NEWS NO. 42
41	2009. 3	解説	佐々木良一	公開鍵暗号危殆化対策のためのリスク評価	オペレーションズ・リサーチ 2009年3月号, pp155-160
42	2009. 4	解説	佐々木良一	合意形成支援ツール「多重リスクコミュニケーター(MRC)」の開発とその後の展開	JISTEC REPORT VOL71 pp8-11
43	2009. 11	解説	佐々木良一	企業が考えるべき IT リスクコミュニケーション	広報会議
44	2009. 11	解説	佐々木良一	図書館の IT リスクを考える	専門図書館 No. 238
45	2009. 12	解説	佐々木良一	情報セキュリティから IT リスクへ	日立評論「一家一言」
46	2010. 01	解説	佐々木良一	クラウドと IT リスク	情報ネットワーク法学会

■ パネラー等

No.	発表年月	区分	発表/執筆者	題名	発表先
1	2001. 9	パネラー	佐々木良一	情報セキュリティ教育について	第63回情報処理学会全国大会パネル
2	2001. 10	コーディネータ	佐々木良一	コンテンツ流通サービスビジネスは大河となるか	情報処理学会連続セミナー2001 第3回コンテンツ流通サービス

3	2001. 11	パネラー	佐々木良一	コンテンツ流通サービスのセキュリティの課題	電子情報通信学会パネル
4	2002. 07	パネラー	佐々木良一	電子署名、電子認証シンポジウム	法と情報化社会コンソーシアム組織会議とCSM主催
5	2002. 11	パネラー	佐々木良一	電子社会の未来	日経産業新聞パネルディスカッションシンポジウム
6	2002. 12	パネラー	佐々木良一	SEA/J パートナーおよび認定制度の案内セミナー	SEA/J
7	2003. 01	パネラー	佐々木良一	e-Japan を推進する暗号と情報セキュリティ	JSSM シンポジウム
8	2003. 03	パネラー	佐々木良一	デジタル署名の長期的安全性に関する検討	日本銀行第5回情報セキュリティシンポジウム
9	2003. 06	パネラー座長	佐々木良一	ネットワーク社会の安全について	警察政策学会シンポジウム
10	2003. 11	パネラー	佐々木良一	ユビキタス環境とプライバシー問題	情報ネットワーク法学会パネル
11	2003. 11	パネラー座長	佐々木良一	情報セキュリティと安全・安心への接近法	安全・安心と科学技術プロジェクトセミナー
12	2004. 03	パネラー座長	佐々木良一	ユビキタス社会のセキュリティ・プライバシー・リスクそして情報倫理	電子情報通信学会全国大会、「ユビキタス社会の情報倫理」
13	2004. 06	コメント	佐々木良一	ウィニー開発者提訴	朝日新聞(大阪本社版)6月1日 p. 33
14	2004. 07	コメント	佐々木良一	ウィニー事件の教訓	讀賣新聞7月7日 p. 30
15	2004. 09	パネラー	佐々木良一	急速なIT化に対応する情報セキュリティマネジメントとは	NIKKEI NET 特集組織と情報セキュリティII
16	2004. 11	コメント	佐々木良一	DVDレコーダから不正侵入される危険性について	NHK-TV[ニュースセンタ10]
17	2005. 04	コメント	佐々木良一	「ウィルスバスター」でPC障害、原因はチェックミス	Yomiuri On Line 社会 2005/4/25
18	2005. 09	パネル	佐々木良一	法制度から見た情報セキュリティ	FIT2005 イベント 2005. 9. 8
19	2005. 10	パネ	佐々木良一	情報セキュリティへの新たな	情報化月間記念

		ル座長	(岩下、三輪、小屋)	脅威と対策	特別行事 情報処理推進機構 2005年10月3日
20	2005.10	出展	佐々木、安他	暗号メールの個人情報不正流出チェックシステム	CEATEC2005
21	2005.11	インタビュー	佐々木良一	読みトーク「システム障害」	読売新聞朝刊 解説 2005年11月11日
22	2005.11	コメント	佐々木良一	システム障害	読売新聞朝刊 社会 2005.11.2
23	2006.02	コメント	佐々木良一	民主メール問題	読売新聞朝刊 政治 2006.2.23
24	2006.03	コメント	佐々木良一	ワイド時典「電子メール」	読売新聞朝刊 解説 2006.3.6
25	2006.04	コメント	佐々木良一	緊急レポート 「ライブドア事件捜査の切り札」デジタル・フォレンジック	日経情報ストラテジーApril2006
26	2006.06	コメント	佐々木良一	21レポート「PCのデータが捜査の“有力証拠”に」	日経PC21
27	2006.08	新聞掲載	佐々木良一 (取材発表)	PC利用履歴を簡単保存	日経産業新聞 2006.08.10
28	2006.12	新聞掲載	佐々木良一 (取材発表)	「割り印」付き証拠保全	日本経済新聞朝刊「科学」 2006.12.18
29	2007.2	コメント	佐々木良一	役に立ったネット護身術	日経新聞「プラス1」2007.2.17
30	2007.9	座長パネル	佐々木良一	JSOX時代のデジタル・フォレンジック	情報処理学会連続セミナー2007 「情報セキュリティ2.0 自由と統制の時代のセキュリティ」
31	2007.10	パネル	佐々木良一	新時代の情報セキュリティ	東京電機大学パネル「ユビキタス基盤+通信・放送融合と情報メディアの進化」
32	2007.11	インタビュー	佐々木良一	ITリスクの上手な“波乗り術”	日経パソコン「編集長インタビュー」

		ユー			ー」
33	2007. 12	新聞 発表	佐々木良一	最善のリスク対策支援「合意 形成ツール開発」	日刊工業 12月 28 日
34	2008. 1	コメ ンテ イト	佐々木良一	ウイルス罪	毎日新聞 1月 24 日夕刊
35	2008. 2	新聞 掲載	佐々木良一	情報セキュリティの動向	セキュリティ産 業新聞 2月 25日
36	2008. 3	イン タビ ュー	佐々木良一	情報セキュリティは待ったなしの「ITリスク時代」に	日経BP bpspecial IT マネジメント
37	2008. 5	新聞 掲載	佐々木良一	情報セキュリティ(上)(下)	電波タイムズ 5 月 16、5月 19日、
38	2008. 5	パネ ラー	佐々木良一	すべて SaaS にまかせれば安全・安心か-SaaS の限界を見極めて賢く利用するー	第 5 回情報セキュ リティ EXPO 専 門セミナー
39	2008. 6	パネ ラー	佐々木良一	サステナブル社会構築には何が必要かーセキュリティ技術からの視点	日本セキュリテ ィマネジメント 学会第 22 回全国 大会
40	2008. 11	オー ガナ イザ ー	佐々木良一	情報化社会におけるプライバシー セキュリティ 法制度と技術の両面から考える	第 1 回プライバ シー・セキュリテ ィ国際会議
41	2008. 10	イン タビ ュー	佐々木良一	メールセキュリティ対策	週刊「東洋経済」
42	2008. 10	新聞 掲載	佐々木良一	書籍紹介「ITリスクの考え方」	セキュリティ産 業新聞
43	2008. 10	パネ ル	佐々木良一	情報漏洩と情報詐欺の最新事情ー企業はどう対処すればよいかー	I P A フォーラ ム 2008
44	2008. 11	コメ ンテ イト	佐々木良一	うっかり公開ー 流出リスク認識必要	読売新聞 11月 17 日
45	2008. 11	コメ ンテ イト	佐々木良一	「漏らすな情報、閉ざすな心」 の精神で	日経ネット Plus 「インタビュー 領空侵犯」
46	2008. 冬	イン タビ ュー	佐々木良一	IT リスク対策はバランス重 視で	日本サムソン (株) 機関誌「い い人に会う」
47	2008. 11	イン タビ ュー	佐々木良一	リスク対策が別のリスクを引き起こす	リスク対策. com
48	2008. 11	コメ ンテ イト	佐々木良一	グーグルマップ情報流出	産経山系ニュー スMSN

49	2009. 1	コメント	佐々木良一	グーグルマップ情報流出	日本テレビ ニュース
50	2008. 12	インタビュー	佐々木良一	情報セキュリティはガイドラインの策定から	G C J (Graphic Communications japan industry association) - Persons
51	2009. 2	モデレータ・パネル	佐々木良一	CRYPTREC シンポジウム 「日本の暗号研究と政府推奨暗号の今後について」	(独立行政) 情報通信研究機構、情報処理推進機構
52	2009. 2	モデレータ	佐々木良一	「電子政府推奨暗号」は2つで十分?—シンポジウム—	日経 B P ITpro 「セキュリティ」
53	2009. 3	インタビュー	佐々木良一	デジタル・フォレンジックスと I T リスク学の考え方	Humming HEADS
54	2009. 7	コメント	佐々木良一	サイバー攻撃防げるか	読売新聞 7月 14 日朝刊
55	2009. 7	書評	佐々木良一	黒鳥の歌は聞こえるのか 「ブラックスワン」	マイコミジャーナル (レビュー)
56	2009. 9	講演要旨	佐々木良一	多重化する IT リスクに「IT リスク学」の確立を	マイコミジャーナル (レポート)
57	2009. 10	パネル	佐々木良一	ネットワークセキュリティのこれから	ネットワークセキュリティワークショップ in 越後湯沢 2009
58	2009. 10	パネル	佐々木良一	MWS の新たな展開に向けて—動作記録データセットを用いたマルウェア対策研究	MWS 2009
59	2009. 11	パネル	佐々木良一	デジタルフォレンジックスとは	第 29 回医療情報学連合会
60	2010. 1	パネル	佐々木良一	リスクアセスメントと多重リスクコミュニケーター	JNSA NSF リスクアセスメント
61	2010. 1	パネル	佐々木良一	重要インフラ事業者におけるリスク管理、事業継続」	IPA 重要インフラ情報セキュリティ

■ 学会、社会における主な活動

関係団体名	活動内容	期間(任期)
IFIP (情報処理国際連合) TC11	Representative from Japan Additional Representative from Japan	2001年10月～ 2006年11月 2006年11月～
情報処理学会	「コンピュータセキュリティ研究会」主査 「コンピュータセキュリティ研究会」顧問	2000年4月～ 2002年4月～
情報処理学会	理事	2003年5月～ 2004年4月
電子情報通信学会	「技術と社会・倫理研究会」 委員長	2003年5月～ 2004年4月
日本セキュリティマネジメント学会	常任理事	2004年6月～ 2008年5月～
日本セキュリティマネジメント学会	会長	2008年6月～
デジタルフォレンジック研究会	理事	2004年4月～
情報処理振興事業協会 (IPA)	「次世代ソフトウェア」 プロジェクトマネージャー	2002年9月～ 2006年3月
情報通信研究機構 (NICT)	「委託研究評価委員」	2001年4月～
情報処理振興事業協会 (IPA)	「情報セキュリティ関連事業推進委員会」委員長	2005年4月～
経済産業省	「情報セキュリティ教育研究会」座長	2003年9月～ 2004年3月
総務省・経済産業省	暗号技術検討会 (WG リーダ等)	2001年3月～
総務省	次世代IPインフラ研究会委員 (セキュリティWGリーダ)	2005年4月～ 2006年3月～
内閣官房	セキュリティ技術戦略専門委員会 (委員長)	2005年8月～
知的財産高等裁判所	知的財産権訴訟の専門委員	2006年～
日本学術会議	連携会員	2006年8月～
情報ネットワーク法学会	理事長	2006年12月～
日本ネットワークセキュリティ協会	会長	2007年3月～
総務省	APS・SaaSの情報セキュリティ対策に関する研究会座長	2007年7月
IT-ADR センタ運営審査委員会	委員 —戦略的IT紛争解決—	2008年9月

中央大学研究開発機構	客員研究員（機構教授）	2009年11月～ 2011年3月
------------	-------------	----------------------

■ 特許

No	発明者	名称	出願日 (出願番号)	公開日 (公開番号)	備考
1	佐々木良一 桂川健一 本杉洋	カメラ付携帯電話 を利用した電子投 票システム	平成17年1月18 日 (2005-10081)	平成18年8月3 日 (2006-201839)	
2	佐々木良一 芦野佑樹 粉川寛人 佐藤吏	デジタルフォレン ジック保全装置	平成17年12月1 日 (2005-34572)	平成19年6月21 日 (2007-158489)	
3	宮崎邦彦 秦野康生 佐々木良一 増淵孝延 芦野佑樹	電子証拠データ開 示方法およびシス テム	平成18年 (2006-006907)		日立より 出願
4	佐々木良一 入沢麻里子 芦野佑樹	カメラを利用した 操作記録正当性保 証システム	平成19年2月28 日 (2007-50194)		
5	佐々木良一 藤田圭祐 芦野佑樹 上原哲太郎	プログラムの不正 起動防止システム 及び方法	平成20年4月21 日 (2008-110270)		

■ 表彰

表彰名	時期	対象	受賞者
平成13年情報処理学会論文賞	2002年5月	論文「印鑑と電子印鑑の歴史と類似性の分析」	佐々木良一
平成13年度関東地方発明表彰発明奨励賞	2002年	MULTI 暗号	佐々木良一
平成15年情報処理学会フェロー	2003年3月	セキュリティ技術の研究開発、実用化、普及および啓蒙に関する貢献	佐々木良一
平成17年度システム制御情報学会産業技術賞	2005年5月	電子透かしを用いたWebサイト認定マークの実用システム開発と評価	青島 弘和 吉浦 裕 州崎 誠一 本城 信輔 豊島 久 佐々木良一
平成17年度応用セキュリティフォーラム成果アワード最優秀賞	2005年10月	安全と安心に関する研究（疫学的アプローチ、リスク科学的アプローチ）	佐々木良一
「総理大臣と桜を見る会」招待	2007年4月	セキュリティ研究・教育・政策立案への貢献	佐々木良一
平成19年総務大臣表彰	2007年10月	「情報セキュリティ促進部門」	佐々木良一
「情報セキュリティの日」功労者表彰	2008年2月	我が国の情報セキュリティに係る研究開発・技術戦略と、その成果の利用方法に関する戦略のとりまとめ	佐々木良一
情報処理学会マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム(DICOM02008)優秀論文賞	2008年8月	デジタル・フォレンジック対策選定のための法的証明力を高める要件の関係性に関する検討	川西英明 加藤弘一 間形文彦 勅使河原可海 西垣正勝 佐々木良一
第5回「情報セキュリティ文化賞」 情報セキュリティ大学院大学	2009年3月	我が国社会全体における情報セキュリティの発展に広く貢献	佐々木良一

平成 20 年度情報処理学会 功績賞	2009 年 4 月	「永年にわたり情報セキュリティ分野の研究に携わり、数多くの優れた業績を挙げてこられました。株式会社日立製作所、東京電機大学のみならず学会活動を通して、情報セキュリティ技術の向上と人材育成に尽力されるとともに、我が国の情報セキュリティ政策策定にもかかわり、産学官にわたり、我が国における情報セキュリティの発展に貢献をされました。」(表彰理由抜粋)	佐々木良一
-----------------------	------------	--	-------

■ 学生の受賞

表彰名	時期	対象	受賞者
情報処理学会 CSS2007 学生論文賞	2007年10月	不正プログラムの起動制御機能を持つDFシステムの提案	藤田圭祐
情報処理学会 DICOMO 2008 ベ ストプレゼンテーショ ン賞	2008年6月	デジタルデータ証拠保全プラットフォーム『Dig-Forceシリーズ』の開発と評価	芦野佑樹
情報処理学会山下記念 研究賞	2009年3月	Ajax を用いたSSHクライアントシステムの提案と実装	小須田優介
日本セキュリティ・マ ネジメント学会第一回 辻井重男学生論文賞セ キュリティマネジメント 学生賞	2009年2月	セキュリティデバイスとヒステリシス署名を用いたデジタルフォレンジックシステムの提案と評価	芦野佑樹
第13回サイバー犯罪 に関する白浜シンポジ ウム「ひらめき賞」	2009年6月	危機管理コンテスト	三原 元 名雲孝昭 田中達哉
情報処理学会のシンポ ジウム DICOMO2008 ヤングリサーチ賞	2009年7月	APIHook を用いた USB メモリからの個人情報漏洩対策システムの開発	古澤麻衣子
情報処理学会 MWS カ ップ 2009 優勝	2009年10月	マルウェアによる不正侵入対策コンテスト	三原 元 名雲孝昭 田中達哉
日本セキュリティ・マ ネジメント学会セキュ リティマネジメント学 生論文努力賞	2010年3月	ユーザ標的型 Web サイト改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案	田村 佑輔

5. 博士・修士・卒業論文梗概

■ 2009 度

[博士論文]

IT リスクの分析と合意形成に関する研究

谷山 充洋 (1)

[修士論文]

脆弱性対策教育のための e ラーニングシステムの開発と評価

竹下 数明 (2)

暗号危殆化に対する長期署名フォーマットの安全性評価

西本 敬志 (3)

数量化理論と CCCDATASET2009 を利用したボットネットの C&C サーバ特定手法の提案と評価

三原 元 (4)

プライバシー保護のための墨塗り機能を持つ電子証明書システムの提案と評価

佐久間貴士 (5)

大容量記憶装置の高速抹消方式の提案と評価

吉田 達央 (6)

ファイル構造の特徴を用いた高速抹消方式の提案と評価

吉岡 甲将 (7)

[卒業論文]

ヒステリシス署名分割検証方式の提案と評価

小金谷夏子 (8)

改ざんサイト自動検知システム DICE の開発と評価

田中 達哉 (9)

PC 内に残っている個人情報に対する適切な消去方法の提案と評価

中村 圭吾 (10)

複数組織にまたがる疫学調査におけるプライバシー確保のための大容量耐タンパー装置 HiGATE の適用方式の開発

長谷部浩司 (11)

デジタルフォレンジックを考慮した個人情報漏洩対策に関する合意形成のための多重リスクリスクコミュニケーターの適用

土方 広夢 (12)

予防接種法を用いた標的型攻撃対策向け e ラーニングコンテンツの開発

森山 智哉 (13)

■ 2008 度

[博士論文]

デジタルフォレンジックシステムにおける証拠保全方式の開発に関する研究
芦野 佑樹 (14)

[修士論文]

構造計算書不正検知システムの提案と評価
植松 建至 (15)

多重リスクコミュニケーターの適用と教育
谷山 充洋 (16)

不正プログラムの起動制御機能を持つDFシステムの提案と評価
藤田 圭祐 (17)

[卒業論文]

ユーザの特性に合わせ効果的にフィッシング対策を学べる e ラーニングの提案
川上 昌俊 (18)

携帯電話における個人認証方式の調査・分析
笹本 智啓 (19)

インターネットエクスプローラからの個人情報漏洩の可能性とその認識に関する調査と分析
中村 俊博 (20)

APIHook を用いた USB メモリからの個人情報漏洩対策システムの開発
古澤麻衣子 (21)

大容量耐タンパ装置の試作と e-Discovery への適用
櫻井 裕唯 (22)

端末の動作制御と SaaS によるログ管理を組み合わせた端末監視システムの提案
山中 徹也 (23)

多重リスクコミュニケーターMRCにおけるイベントツリー分析支援ツールの開発
富永 子南 (24)

数理化理論を用いたフィッシングサイト対策の実装
江口 慶 (25)

IPトレースバックにおける出国印方式の拡張と評価
村上 真教 (26)

ボットネット多段階追跡システムにおける最終段階追跡方式の提案と評価
名雲 孝昭 (27)

ユーザ標的型 Web 改ざんに対する検索エンジンを用いた検知手法の提案
田村 佑輔 (28)